

科 目 名	地 域 保 育 基 礎 講 座			単位数	2	担当教員	そめや てつお 染谷 哲夫 他
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	3年間の学びを開始するにあたり、前期は様々な基礎事項について学び、地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を養成する。学科の専任教員が専門分野の話を交えながら分担して行う。学外講師による講演や校外授業（地域・社会見学等）も予定している。 後期は公務員試験を視野の入れた基礎学力の向上を図る。これは、保育士採用試験、幼稚園教諭採用試験を受験するための基本となる知識を身に付けるだけでなく、短大生にとって必要な最低限の基礎学力を獲得する。中学校や高校の数学、社会科全般、簡単な生物や科学、専門科目の基礎などを中心に、面接試験や作文試験に備えての土台となる時事的な知識の習得にも取り組む。						
到 達 目 標	1．地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を身につけている。 2．ノートの取り方及びレポート記述や発表の方法を身につけている。 3．広い視野で自分を見つめ、これからの大学生活・学習に生かせるようになる。 4．保育を学ぶ学生にとって必要な基礎学力を身につけている。 5．保育士採用試験、幼稚園教諭採用試験で6割程度を取れる学力を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	授業の概要 学科専任教員の紹介			第 16 回	保育士採用試験や幼稚園教諭採用試験についての簡単なガイダンス授業	
	第 2 回	学校施設紹介 防災について			第 17 回	中学校レベルの復習テストで、何を学んできたかを思い出す。	
	第 3 回	大学での学び① 基本 基礎学力の必要性			第 18 回	小学校高学年の算数の復習	
	第 4 回	大学での学び② ノートの取り方 レポートの書き方			第 19 回	中学生の数学の復習	
	第 5 回	社会人としての基礎① 立ち居振る舞い・言葉遣い等			第 20 回	日本史の復習	
	第 6 回	社会人としての基礎② 身体・生命・健康等			第 21 回	世界史の復習	
	第 7 回	大学での学び レジュメの書き方 発表のしかた			第 22 回	地理の復習	
	第 8 回	課題研究① グループ分け テーマ設定			第 23 回	理科の復習① ～生物・地学	
	第 9 回	課題研究② グループ分け テーマ設定			第 24 回	理科の復習② ～科学・物理	
	第 10 回	課題研究③ 発表準備			第 25 回	保育士採用試験作文の基礎	
	第 11 回	発表①			第 26 回	保育士採用試験作文の応用	
	第 12 回	発表②			第 27 回	保育士・幼稚園教諭採用試験の面接	
	第 13 回	学外講師による講演（全学年対象）			第 28 回	簡単な専門知識の演習問題と解説① ～保育原理・児童心理	
	第 14 回	前期まとめ			第 29 回	簡単な専門知識の演習問題と解説② ～小児栄養・子どもの病気	
	第 15 回	校外学習 多摩六都科学館			第 30 回	保育時事を中心としたまとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 準備や振り返り等、自分と向き合う時間が必要である。 マスコミなどの報道に気を付け、日々、社会に目を向けるようにしてほしい。			復習： 基礎学力（公務員試験対策）については十分な復習を心がけ定着を図る。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（30％）、課題（20％）、授業態度（50％）						
教 科 書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房） 天声人語書き写しノート学習用						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	学外講師による講演や学外授業の日時および内容等は暫定的である。確定次第連絡するがそれに伴い授業計画も変更になる。						

科 目 名	日 本 国 憲 法			単位数	2	担当教員	ひらた　　よういち 平田　　陽一
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。						
到 達 目 標	1．憲法が制定された目的を理解している。 2．憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を持つことができる。 3．自己の判断により国の政策を選択できる。						
授 業 計 画	第 1 回	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）					
	第 2 回	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）					
	第 3 回	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）					
	第 4 回	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決すること）					
	第 5 回	国民主権主義（国家の政策は国民が決めるということ）					
	第 6 回	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）					
	第 7 回	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するため分割すること）					
	第 8 回	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）					
	第 9 回	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）					
	第 10 回	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）					
	第 11 回	参政権など（国民の意思の表明などについて）					
	第 12 回	立法機関（国会の役割について）					
	第 13 回	行政機関（内閣の役割について）					
	第 14 回	司法機関（裁判所の役割について）					
	第 15 回	憲法の現代的諸問題					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　　予習は困難と思われるので、特に必要としない。				復習：　　単なる復習ではなく、基本的な問題を心に留めて考え続けることが望まれる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（60％）、授業態度（40％）						
教 科 書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、よい社会は自分達で作るという積極的な心構えで勉強すること。						

科 目 名		情 報 処 理		単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	授業の前半では、Microsoft Office に含まれている文書作成ソフト（Word）および表計算ソフト（Excel）の基礎を習得する。 授業の後半では、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本的な取り扱いかたや、Word と Excel との同時利用など、各ソフトの応用課題に取り組む。						
到 達 目 標	１． 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 ２． パソコン初心者は、「習うよりも慣れること」の大切さを理解している。 ３． パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス（序章～2 章の 1、3 章の 1） コンピュータとインターネット、モラルハザード、Windows の基礎知識、日本語入力の練習、Word/Excel の起動終了、その他。					
	第 2 回	Word の学習①（2 章の 1～3） やさしい文書の作成練習、その他。					
	第 3 回	Word の学習②（2 章の 4～5） 表の取り扱い、文書の修飾（前）（フォント、下線、網かけ、レイアウト、etc.）、その他。					
	第 4 回	Word の学習③（2 章の 5～6） 文章の修飾（後）（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他。					
	第 5 回	Word の学習④（2 章の 6～7） やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他。					
	第 6 回	Excel の学習①（3 章の 1～2） 基本的な表（数表）の作成、その他。					
	第 7 回	Excel の学習②（3 章の 3～5） より見やすい表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、etc.）、印刷時の注意事項、その他。					
	第 8 回	Excel の学習③（3 章の 5～6） より高度なデータ処理（前）（条件判定、セル参照、グラフ）、その他。					
	第 9 回	Excel の学習④（3 章の 7～8） より高度なデータ処理（後）（簡単なデータベース、フィルタリング）、その他。					
	第 10 回	PowerPoint の学習①（4 章の 1～2） スライド作成の基本（文字入力、スライドの挿入・削除・置換）、その他。					
	第 11 回	PowerPoint の学習②（4 章の 3～7） スライド作成の応用（図表・画像の挿入、アニメーション効果）、その他。					
	第 12 回	Word および Excel の応用① 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他。					
	第 13 回	Word および Excel の応用② 両ソフトの同時使用、Excel を利用した数学問題の回答、その他。					
	第 14 回	PowerPoint の応用 Word および Excel を併用した、より高度なスライドの作成、その他。					
	第 15 回	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法について、各自の見解をレポートとしてまとめる。					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 上記「授業計画」に示す教科書の章番号・節番号を目安にして、教科書の内容にあらかじめ目を通しておくこと。			復 習： パソコン操作に慣れていない人は、授業の空き時間を利用するなどして、パソコンに触れる機会を増やすよう努力すること。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（70％）、授業態度（30％）						
教 科 書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』（杉本くみ子・吉田栄子、実教出版株式会社） 上記のほか、プリントを随時配布						
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介						
注 意 事 項	１． 教科書を毎回、忘れずに持参すること。 ２． 教科書の記載内容の一部を、より up to date な内容に置き換えて説明することがある。 ３． 無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」な言動は厳禁とする。 ４． 課題については、教科書所収の設問以外からも出題される（プリント配布などを行う）。						

科 目 名		英 語		単位数	2	担当教員	あかまつ みちこ 赤松 道子
		授業形態		演習			
授 業 の 内 容	英会話の基本的具体的な項目を少しずつ学び、少しずつ覚え、練習していきます。聞くこと、話すことを中心として、1対1で話す経験を通して、身近な話題をはっきりとゆっくりと集中して聞き取り、話す練習をします。授業の最初にアンケートを行い、学生のみなさんの要望を授業に取り入れます。小話を聞き、クイズに答えながら、英語に慣れていきましょう。テーマ修了後に「ふりかえりの記録」にわからない単語・表現を書いてもらい、次の授業で復習します。(授業内容は授業時間によって変更がある場合があります。)						
到 達 目 標	1. はっきりとゆっくりと自分、家族、周りの世界の具体的な事柄について、基本的な表現を習得している。 2. 質問したり、答えたりのやり取りを習得している。 3. 恥ずかしさや英語への恐れを少なくし、人前で話すことに慣れている。						
授 業 計 画	第 1 回	授業アンケート記入と自己紹介 学生に適した自己紹介を学ぶ			第 16 回	質疑応答の基本表現 疑問文の練習 会話を継続するために適した質問ができるように練習する	
	第 2 回	自己紹介・あいさつの仕方 出会ったとき、別れる時の表現を学ぶ			第 17 回	食事・食べ物① 基本的な表現の習得 食べ物の単語を確認する	
	第 3 回	仕事・職業 基本的な表現 学生が興味を持っている読み物を取り上げる			第 18 回	食事・食べ物② 朝食・昼食 食事場面の練習をする	
	第 4 回	世界の言葉・人々・国々① 基本表現・日本と密接な関係にある国を取り上げる			第 19 回	食事・食べ物③ 注文の仕方 応用練習 注文・支払の仕方の基本を学ぶ	
	第 5 回	世界の言葉・人々・国々② 言語・人々 〇〇語、〇〇人という表現を学ぶ			第 20 回	食事・食べ物④ 世界の料理 世界の民族料理に注目し、味についても学ぶ	
	第 6 回	世界の言葉・人々・国々③ 世界の国々 〇〇国、〇〇国という表現を理解する			第 21 回	あいづちの打ち方、会話で特徴的な表現を学ぶ	
	第 7 回	家族① 基本表現 家族関係の基本的な単語を理解する			第 22 回	住まい・家・部屋 基本表現の習得 〇〇あります、という存在を示す表現の練習をする	
	第 8 回	家族② 親戚・友人 幅広い関係を示す表現を学ぶ			第 23 回	道案内・方角 基本表現の練習 実際に自分の最寄り駅から学校まで、東京の地下鉄を使って道案内をする	
	第 9 回	家族③ 応用練習 家族についての表現を用いて会話練習			第 24 回	電話、電話の応対① 電話の基本表現 電話の仕方の基本表現を学ぶ	
	第 10 回	時の表現① 基本的な表現の習得 時を示す表現方法を学ぶ			第 25 回	電話、電話の応対② 伝言、電話の種類 職場での伝言の取次、対応の練習をする	
	第 11 回	時の表現② 毎日、朝から夜までの表現 〇〇時に何をするという表現を学ぶ			第 26 回	クリスマス・新年 歌・ゲーム 世界のクリスマス、日本のクリスマスと比較し、関連表現を学ぶ	
	第 12 回	時の表現③ 年月日について 西暦、月、日の表現方法を学ぶ			第 27 回	日本の新年 日本に特徴的な料理、習慣を取り上げて、関連表現を学び、自分の例を話す練習をする	
	第 13 回	時の表現④ 曜日、頻度の表現 いつもする、ときどきする、という頻度を示す表現を学ぶ			第 28 回	スケジュール・約束・提案 基本表現 未来形を学び、約束に関連する表現を学ぶ	
	第 14 回	誕生日、要望の表現 〇〇したい、という要望の表現を学び、自分の例を話す			第 29 回	将来・予定・人生設計 基本表現 自分の将来の希望について話す練習をする	
	第 15 回	色彩・洋服・買物の表現 買物場面を念頭において会話練習			第 30 回	復習・試験練習 今まで学んできた内容を確認し、復習する	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 次の授業のテーマを予告しますから、テーマについて日本語で少し考えてみる。			復習： 授業で習った基本表現について、声を出して発音し、耳で確認する。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70％）、授業態度（30％）※試験には口述試験も含まれます。						
教科書	カリキュラムに応じてプリントを配付						
参考文献	必要な場合には指示						
注意事項	1. 表現の習得のために発音の練習をします。間違ってもかまいませんから、大きな声で発音すること。 2. 意欲を持ち、積極的に授業に参加すること。 3. 授業には英語の辞書を持参すること（電子辞書、冊子式辞書どちらでもよい）。						

科 目 名		体 育 実 技		単位数	1	担当教員	おか　　よしろう 岡　　芳　郎
			授業形態	実技			
授 業 の 内 容	本講義では、身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努めることによって、生涯にわたって豊かな生活を営むために必要な運動の技能や知識を習得すること。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、さまざまな身体コミュニケーションを行うことの意義について理解を深めることを目的に授業を実施する。						
到 達 目 標	１．運動・スポーツを通して主体性・協調性・社会性・道徳性などを身につけている。 ２．幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強が図られている。 ３．幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるよう、運動に関する資質が向上している。						
授 業 計 画	第 1 回	授業ガイダンス 受講上の注意事項について説明			第 16 回	フットサル③ （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）	
	第 2 回	からだほぐし （なわとび・ボールなどを使って）			第 17 回	卓球① （各種ストロークの練習　簡易ゲーム）	
	第 3 回	ドッチボール① （ルール説明　簡易ゲーム）			第 18 回	卓球② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）	
	第 4 回	ドッチボール② （クラス内対抗マッチ）			第 19 回	テニス①　（各種ストロークの練習　ルールを把握しながらの簡易ゲーム）	
	第 5 回	バドミントン① （各種ストロークの練習　簡易ゲーム）			第 20 回	テニス② （ダブルスのゲーム）	
	第 6 回	バドミントン② （ダブルスゲーム　総当たり　リーグ戦）			第 21 回	なわとび検定① （両足とび・綾とび・交差とび　前・後１０回）	
	第 7 回	バドミントン③ （ダブルスゲーム　総当たり　リーグ戦）			第 22 回	なわとび検定② （二重とび　前・後１０回　ハヤブサ　前・後１０回）	
	第 8 回	バスケットボール① （パス・ドリブル・シュート練習　簡易ゲーム）			第 23 回		
	第 9 回	バスケットボール② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）			第 24 回		
	第 10 回	バスケットボール③ （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）			第 25 回		
	第 11 回	ソフトバレーボール① （パス・アタック・サーブ練習　簡易ゲーム）			第 26 回		
	第 12 回	ソフトバレーボール② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）			第 27 回		
	第 13 回	ソフトバレーボール③ （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）			第 28 回		
	第 14 回	フットサル① （パス・ドリブル・シュート練習　簡易ゲーム）			第 29 回		
	第 15 回	フットサル② （Ａ・Ｂブロック総当たり　リーグ戦）			第 30 回		
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　授業で実施する実技について基本技術やルールを把握しておくこと。				復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（１０％）、課題（２０％）、実技（３０％）、授業態度（４０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	１．指定された体操着を着用すること。 ２．シューズは体育館用・外用を準備すること。 ３．欠席回数が全授業の３分の１を超えた場合は評価の対象外となる。						

科 目 名	体 育 講 義			単位数	1	担当教員	おか よしろう 岡 芳 郎
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	本講義では、「健康」「運動」「スポーツ」の実践の基盤となる理論的な事柄について理解を深めていくことを目的に、健康・体力・運動について正しい知識を学び健康的なライフスタイルを目指せるようにする。 また、さまざまな生活習慣病について学び、運動・栄養・休養との関係について考えていく。						
到 達 目 標	１．健康とは何かについて自分の考えが述べられる。 ２．生活習慣病とその対策について理解している。 ３．自らの健康の保持増進方法を考え、実践することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	授業ガイダンス 性格について（性格の形成 性格の分類 性格診断など）					
	第 2 回	血液について（血液の役割 血液の成分 血液型の比率 血液型の遺伝システムなど） 人体のしくみについて（各器官系の働きなど）					
	第 3 回	運動器系の構造と働きについて（骨格系・筋肉系・関節など） 神経系の構造と働きについて（脳の構造・機能 右脳左脳の働きなど）					
	第 4 回	現代社会と健康について （健康の定義・考え方 食事・運動・休養との関係性など）					
	第 5 回	体力・運動能力の定義について （種類・構造・基本的な体力要素など）					
	第 6 回	生活習慣病と健康について （体型・体格の 3 要素 標準体重 BMI など）					
	第 7 回	青年期の性について （さまざまな避妊法 人工妊娠中絶 性感染症など）					
	第 8 回	スポーツ障害と応急処置について （応急処置の意義・手順 心肺蘇生法 A E D など）					
	第 9 回						
	第 10 回						
	第 11 回						
	第 12 回						
	第 13 回						
	第 14 回						
	第 15 回						
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 授業テキストを事前に読んでおくこと。				復 習： 講義内容や配布資料などをまとめて内容を理解しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（５０％）、レポート（１０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）						
教 科 書	『大学生のための体育講義』（茗井香保里、推敲舎） 必要に応じてプリントを配布						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	１．授業開始は１１月からである。 ２．授業中の飲食禁止 ３．授業中の携帯電話の使用禁止 ４．欠席回数が全授業の３分の１を超えた場合は評価の対象外となる。						

科 目 名	心 理 学 入 門			単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	保育者を目指す学生にとって心理学を学んでおくことは有益である。保育者として、さまざまな子どもの心理発達や問題を考えていく際の大切なものさしの一つとなる。 本講義では、心理学の領域全般を概観し、心理学の基礎的知識の習得と、今後学習する「発達心理学」「教育心理学」「臨床心理学」「保育の心理学」等の学習への導入に資することを目指す。さらに、将来現場で活かせる基本的な実践能力の育成を図ることを目的とする。						
到 達 目 標	心理学の基礎的知識を習得し、順調に次の学習へと進み、さらに、子どもの心の発達理解に学んだ知識をどのように活かせるのかを自ら考えられるようになる。 １．心理学の基礎的知識を正確に習得している。 ２．今後学習する心理学系科目への移行が円滑にできる知識を備えている。 ３．学んだ知識を活用して、子どもの心の発達等について考えられる意欲を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション					
	第 2 回	心理学とは何か					
	第 3 回	心理学の歴史、研究方法					
	第 4 回	生理心理学					
	第 5 回	認知心理学					
	第 6 回	学習心理学					
	第 7 回	人格心理学					
	第 8 回	発達心理学① 心の生涯発達					
	第 9 回	発達心理学② 発達段階と発達課題					
	第 10 回	社会心理学					
	第 11 回	族心理学とコミュニティ心理学					
	第 12 回	臨床心理学① 心の基礎理論					
	第 13 回	臨床心理学② 心理療法の考え方とその過程					
	第 14 回	臨床心理学③ 発達障害の心理					
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習：		毎回、学んだ知識を正確に習得できるように授業ノートや参考文献等を丁寧に見直すこと。
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70％）、レポート（30％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	講義の中で必要に応じて適宜紹介						
注 意 事 項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れて体験的な学習もおこないたい。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。						

科 目 名	マンガ・イラスト表現		単位数	2	担当教員	いいだ こういちろう 飯田 耕一郎
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。 イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が広がるものと考えて大きな区別はありません。					
到 達 目 標	1. 人物の顔と表情が描き分けられるようにし、いろんなキャラを描ける。 2. 人物の全身は難しいですが、チビキャラでバランスを理解し描ける。 3. 人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解している。					
授 業 計 画	第1回	【○と□を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本				
	第2回	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ				
	第3回	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する				
	第4回	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く				
	第5回	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる				
	第6回	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く				
	第7回	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる				
	第8回	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する				
	第9回	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの2回目				
	第10回	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる				
	第11回	【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ				
	第12回	【シワの描き方を学ぼう】服などのシワの理屈を学ぶ				
	第13回	【六頭身キャラを描いてみよう】シリアスサイズのキャラを学ぶ				
	第14回	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く				
	第15回	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：			復習： シンプルな課題は自宅で反復練習することによってより上達していきます。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30％）、作品（20％）、実技（30％）、授業態度（20％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項						

科 目 名		日 本 語 表 現		単位数	2	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実	
			授業形態	講義				
授 業 の 内 容		文章作成の基本を知り、美しい日本語、読みやすい文章とは何かを学ぶ。また、日本語の基礎を身につけ、常識としての日本語表現を習得する。人前で発表することで、わかりやすい説明の仕方を身につけると同時に、読書する喜びを味わう。						
到 達 目 標		１．漢字、熟語等の語彙を増やす。 ２．わかりやすく読みやすい文章の基本を学び、文章表現技術を習得している。 ３．名文の観賞力を習得している。 ４．人前で発表する力を身につけている。 ５．日常的に読書をする習慣を身につけている。						
授 業 計 画		第 1 回	オリエンテーション					
		第 2 回	名文を読む					
		第 3 回	詩を鑑賞する					
		第 4 回	保育士に必要な日本語トレーニング① ことわざ、四字熟語を学ぶ					
		第 5 回	保育士に必要な日本語トレーニング② 正しい表記の仕方 間違えやすい熟語・漢字を学ぶ					
		第 6 回	保育士に必要な日本語トレーニング③ 敬語の基本を学ぶ					
		第 7 回	保育士に必要な日本語トレーニング④ 敬語を使う					
		第 8 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑤ 文章トレーニング					
		第 9 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑥ 自由文を書く					
		第 10 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑦ テーマに沿って書く					
		第 11 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑧ 手紙、はがきを書く					
		第 12 回	発表① 本を推薦する－発表原稿を作成する					
		第 13 回	発表② 本を推薦する－発表の仕方を学ぶ					
		第 14 回	発表③ 本を推薦する－発表し、その後の振り返りをする					
		第 15 回	まとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習		予習： 教科書を読む。 小テストの準備をする。			復習： 配布したプリントの復習をする。 作文を推敲する。 小テストの復習をする。			
成績評価の方法		試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（３０％）、レポート（３０％）、発表（３０％）、授業態度（１０％）						
教 科 書		『保育者になるための国語表現』（田上貞一郎、萌文書林）						
参 考 文 献		その都度紹介する						
注 意 事 項		小テストを行う。						

科 目 名	生 命 と 科 学		単位数	2	担当教員	きたのまさる ほしのおさむ 北野 大 ・星野 治
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	授業の前半（～第8回）では、私たちの生命維持に関係する、水、食物及び食品添加物、残留農薬の安全性確保対策について講義する。 授業の後半（第9回～）では、授業の前半での学習内容を念頭に置きながら、生命や防災をテーマとする科学ドキュメンタリー等の鑑賞を行い、生命を守り育てることの意義に関して各自なりに考察を深める。					
到 達 目 標	1．飲料水の質的及び量的な面を理解している。 2．食と健康、保存料などの食品添加物、農薬の役割を理解している。 3．第一級の科学者や技術者によって書かれた文章（論文など）を今のうちから読み慣れておくことにより、近い将来の卒業研究に備えることができる。					
授 業 計 画	第1回	ガイダンス（授業全体の説明及び成績評価の方法などを説明）				
	第2回	水とは① 化学物質としての水				
	第3回	水とは② 生命維持における水の役割				
	第4回	食と健康① 食と疾病との関係				
	第5回	食と健康② 食の役割				
	第6回	食品添加物の種類及び役割				
	第7回	農薬の種類及び役割				
	第8回	食品添加物及び農薬の安全性評価方法				
	第9回	生命を守るための科学技術				
	第10回	保育者の視点からみた過去の被災例① 文芸作品（絵本など）の鑑賞				
	第11回	保育者の視点からみた過去の被災例② 科学ドキュメンタリーの閲読				
	第12回	保育者の視点からみた防災① 文芸作品（絵本など）の鑑賞				
	第13回	保育者の視点からみた防災② 机上シミュレーションの実施				
	第14回	防災情報の最前線を探る ネットサーフィンの実施				
	第15回	総括 授業内容全体のまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 事前に資料配布。			復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70％）、授業態度（30％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	『食と健康』（清水誠 ら、NHK 出版） その他、必要に応じて随時紹介する。					
注 意 事 項	1．予習、復習をしっかりと行い、理解できない点、不明な点を質問により無くす努力をすること。できるだけ易しく講義を行うが、質問は遠慮せずにしてほしい。 2．災害に関する話題は、その多くが深刻な内容のものであり、精神的な負担もかなり大きい。そのことを十分に考慮したうえで、履修してほしい。					

科 目 名	教 育 原 理			単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	子どもは生まれた直後から家族をはじめとする様々な他者（社会）との出会いを経験する。本講義では、教育の思想・歴史・制度の基礎的な理解と、受講生がこれまで経験をしたきた「教育」という営みをとらえ直すことを目的とする。講義の後半では、今日的な教育の課題へと視野を広げ、子どもをとりまく現状について理解を深める。						
到 達 目 標	１．教育に関わる基礎的な思想・歴史・制度を理解している。 ２．自分自身の教育観や子ども観を捉えなおすことができる。 ３．教育の今日的な課題に目を向け、自分なりの見解を述べることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション―講義の受け方・進め方について―					
	第 2 回	人間とは何か―ほ乳類動物の赤ちゃんとの比較からみる人間の赤ちゃんの特徴―					
	第 3 回	教育の原理①―人間の子育ての特徴―					
	第 4 回	教育の原理②―言語獲得以前の子どもと大人の関わり―					
	第 5 回	教育の原理③―生活形式の共有と言語獲得―					
	第 6 回	教育の思想①―「教育」とは何か―					
	第 7 回	教育の思想②―「子ども」の誕生―					
	第 8 回	教育の歴史―近代学校教育制度の成立―					
	第 9 回	教育の制度①―教育法のしくみ―					
	第 10 回	教育の制度②―義務教育制度を考える―					
	第 11 回	教育の制度③―特別支援教育を考える―					
	第 12 回	教育の今日的な課題①―発達障害とは何か―					
	第 13 回	教育の今日的な課題②―幼小接続を考える―					
	第 14 回	社会の中の子ども①―家族の多様化を考える―					
	第 15 回	社会の中の子ども②―子育ての社会化を考える―					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 日ごろから、子どもや子育て、教育に関する報道に目を向けておくこと。				復 習： 講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	『人間はどこまで動物か』（アドルフ・ポルトマン、岩波新書）						
注 意 事 項	１．授業中の私語は認めない。 ２．授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。 ３．講義内容は適宜、板書する。受講生が各自で講義内容のノートを作成すること。 ４．授業毎に講義内容に即したリアクション・ペーパーの作成・提出を求める予定である。受講生が積極的に質問・意見を表明することを期待する。						

科 目 名	保 育 原 理 I			単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	講義では、子どもが育つ場としてどのような保育の場があるのか、保育・幼児教育の制度や現状を理解し、「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」を踏まえて、生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を学ぶ。						
到 達 目 標	１．子どもの生活や遊びにかかわる保育者として、必要な知識や基本的な考え方を身につけることができる。 ２．保育の場における子どもの育ちだけではなく、保護者、保育者にとっての保育の意義を理解している。 ３．子どもや保育・幼児教育を取り巻く現状や課題を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション					
	第 2 回	保育の場を理解する（子ども・保護者・保育者、それぞれが育つ場所）					
	第 3 回	保育の制度と現状					
	第 4 回	幼稚園の一日、保育園の一日					
	第 5 回	保育の基本的な考え方① 子どもの主体性を尊重する					
	第 6 回	保育の基本的な考え方② 遊びを中心とする保育					
	第 7 回	保育の基本的な考え方③ 環境を通しての育ち					
	第 8 回	保育の基本的な考え方④ 子ども一人ひとりの発達過程を捉える					
	第 9 回	保育の基本的な考え方⑤ 個と集団					
	第 10 回	保育課程・教育課程と指導計画					
	第 11 回	子どもと自然					
	第 12 回	子どもと文化					
	第 13 回	保育における子ども理解					
	第 14 回	保育者に求められるもの					
	第 15 回	まとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。				復 習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（７０％）、レポート（２０％）、課題（１０％）						
教 科 書	『保育原理〔第３版〕（最新保育講座）』（森上史朗・若月芳浩、ミネルヴァ書房）						
参 考 文 献	授業において紹介						
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。						

科 目 名	教 育 心 理 学			単位数	2	担当教員	おおくま み か こ 大熊 美佳子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要です。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とします。						
到 達 目 標	１．教育心理学の基本用語を正確に理解している。 ２．子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている。 ３．教育者として必要な心理学的な関わり方を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味、子どもにとって教育とは何かを考える					
	第 2 回	子ども観の変容					
	第 3 回	発達課題					
	第 4 回	認知発達					
	第 5 回	学習理論① 学習とは何か					
	第 6 回	学習理論② 条件づけ					
	第 7 回	学習理論③ 社会的学習理論について					
	第 8 回	子どものやる気① 動機づけ理論について					
	第 9 回	子どものやる気② 意欲と無気力					
	第 10 回	子どものやる気③ 褒めること、叱ること					
	第 11 回	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論					
	第 12 回	子どもの個性を理解する② 知能について					
	第 13 回	教育環境と移行期への対応					
	第 14 回	教育方法① 教授方法について					
	第 15 回	教育方法② 評価について					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 配布するプリントを中心に各回の授業内容を復習し、疑問点があれば次回に確認すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	講義の中で適宜紹介						
注 意 事 項	１．講義形式で行います。 ２．将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために、講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めてください。						

科 目 名	発 達 心 理 学			単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明 芳
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	保育者が子ども（保護者）の問題や課題に向き合う時、人の心身の発達の基本的、標準的な様相やその概要等を学んでおくことは有益である。それらが、保育者として、さまざまな子どもの発達や問題を考えていく際の大切な基礎となる。 本講義では、発達心理学の必要な基礎的知識の習得と将来現場で活かせる基本的な実践能力の育成を図ることを目的とする。						
到 達 目 標	発達心理学の基礎的知識を習得し、それらを使って、子どもや保護者の心の発達理解にどのように活かせるのかを考えられるようになる。 １．発達心理学の基礎的知識を正確に習得している。 ２．学んだ知識を活用して、子どもの心の発達等について考えられる力を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション 発達心理学とは何か等					
	第 2 回	発達を理解するための基礎① 発達の機能連関性					
	第 3 回	発達を理解するための基礎② 発達心理学と保育・教育					
	第 4 回	乳幼児期の発達① 運動機能と認知・思考の発達					
	第 5 回	乳幼児期の発達② 感情と自己の発達					
	第 6 回	乳幼児期の発達③ ことばの発達					
	第 7 回	乳幼児期の発達④ 社会性の発達					
	第 8 回	児童期の発達① 学校への適応・知的機能の発達					
	第 9 回	児童期の発達② 自尊感情・友だち関係					
	第 10 回	青年期の発達① 青年期の悩み					
	第 11 回	青年期の発達② アイデンティティ・友人関係					
	第 12 回	成人期 夫婦関係と子育て・働くこととキャリア					
	第 13 回	老年期の発達 老年期の QOL					
	第 14 回	発達障害 障害児の発達と支援					
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 授業前に教科書の該当箇所を読みこんでおくこと。				復習： 毎回、学んだ知識を正確に習得できるように授業ノートや教科書等を丁寧に見直すこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（８０％）、レポート（２０％）						
教 科 書	『発達心理学』（越智幸一 編、大学図書出版，2015）						
参 考 文 献	講義の際に随時紹介						
注 意 事 項	１．講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。 ２．受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。						

科 目 名		子 ど も の 保 健 I		単位数	4	担当教員	み た のりこ 味田 徳子	
			授業形態	講義				
授 業 の 内 容	子どもの健康と保健の意義について学ぶ。 前期では、「健康や保健の概念」「発育・発達の特徴」「心の健康」「子どもの食生活と栄養」など体や心の基本的知識について習得する。 後期では「子どものかかりやすい病気」「感染症の予防」「子どもの事故」「保育環境」「保育者の健康」など、保育現場における具体的な事柄について学ぶ。							
到 達 目 標	１．乳幼児の発育・発達についての基礎知識を習得し、年齢に応じた客観的な評価ができる。 ２．子どもの病気について理解し、適切な対応ができる。 ３．発達段階に応じた事故が予防でき、また発生時の対応ができる。 ４．望ましい保育環境を整え、子どもおよび保育者の健康を守ることができる。							
授 業 計 画	第 1 回	授業オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義① 保育における子どもの保健			第 16 回	子どもの健康状態の把握		
	第 2 回	子どもの健康と保健の意義② 健康の概念と小児保健統計			第 17 回	子どもかかりやすい病気① ウイルス性感染症・細菌性感染症		
	第 3 回	子どもの発育・発達			第 18 回	子どもかかりやすい病気② 呼吸器、消化器の病気		
	第 4 回	発育の評価			第 19 回	子どもかかりやすい病気③ 皮膚、目の病気		
	第 5 回	運動機能の発達			第 20 回	子どもかかりやすい病気④ 泌尿器の病気		
	第 6 回	精神機能の発達① 言葉			第 21 回	子どもかかりやすい病気⑤ 脳、神経の病気		
	第 7 回	精神機能の発達② 情緒・社会性			第 22 回	子どもかかりやすい病気⑥ 循環器の病気		
	第 8 回	生理機能の発達			第 23 回	子どもかかりやすい病気⑦ アレルギー疾患		
	第 9 回	感覚機能の発達			第 24 回	子どもかかりやすい病気⑧ その他の病気（寄生虫、川崎病、先天異常等）		
	第 10 回	子どもの心の健康			第 25 回	感染症の予防、予防接種		
	第 11 回	特別な配慮が必要な子どもたち① 慢性疾患			第 26 回	学校感染症、健康診断		
	第 12 回	特別な配慮が必要な子どもたち② 児童虐待			第 27 回	子どもの事故① 子どもに多い事故・園で起こりやすい事故		
	第 13 回	特別な配慮が必要な子どもたち③ 発達障害			第 28 回	子どもの事故② 子どもに多いケガ、症状の対処		
	第 14 回	子どもの食と栄養① 乳汁・離乳食			第 29 回	保育環境		
	第 15 回	子どもの食と栄養② 幼児食 食中毒 前期総まとめ・復習			第 30 回	健やかな育ち、保育者の健康管理 後期総まとめ・復習		
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 次回の内容について、教科書・当日使用するプリント（前回配布済）に目を通しておく。				復習： 授業終了前に、講義内容の「振り返り」を行い、定着を図る。また各人で再度プリントを見直す。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（８０％）、課題（１０％）、授業態度（１０％）							
教 科 書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』（鈴木美枝子編著、創成社）							
参 考 文 献	『よくわかる子どもの保健〔第３版〕』（竹内義博・大矢紀昭編、ミネルヴァ書房） 『図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ』（加藤忠明・岩田力編、建帛社）							
注 意 事 項	１．遅刻者はクラス、番号、氏名、遅刻理由を述べて着席して下さい。 ２．前回欠席者は、前回配布プリントの有無を確認し、当日授業開始前に申し出て受領して下さい。							

科 目 名	社 会 福 祉			単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	本講義では、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。						
到 達 目 標	1．社会の変化について理解している。 2．福祉政策を理解している。 3．現代における福祉課題を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	社会福祉の新たな展開					
	第 2 回	福祉政策理解の枠組み					
	第 3 回	社会の変化と福祉					
	第 4 回	福祉と福祉政策					
	第 5 回	福祉の思想と哲学					
	第 6 回	社会政策と福祉政策					
	第 7 回	福祉政策の発展過程					
	第 8 回	少子高齢化時代の福祉施策					
	第 9 回	福祉政策における必要と資源					
	第 10 回	福祉政策の理念・主体・手法					
	第 11 回	福祉政策の関連領域					
	第 12 回	社会福祉制度の体系					
	第 13 回	福祉サービスの提供					
	第 14 回	福祉政策の国際比較					
	第 15 回	これまでのまとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習：				復 習： 配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（60％）、課題（10％）、授業態度（30％）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。						
教 科 書	『社会福祉の基本体系 第5版』（井村圭壯編著、勁草書房）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。						

科 目 名	児 童 家 庭 福 祉		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や児童福祉の背景、児童福祉の理念や意義について学ぶ。					
到 達 目 標	1．児童福祉関係法とサービス体系の供給を理解している。 2．専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題を理解している。 3．相談援助活動や家族支援のための施策等について理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	現代社会と子ども家庭				
	第 2 回	子どもの育ち、子育てのニーズ				
	第 3 回	子ども家庭福祉とは何か				
	第 4 回	子どもと家庭の権利保障				
	第 5 回	子ども家庭福祉にかかわる法制度				
	第 6 回	子ども家庭福祉の実施体制				
	第 7 回	子ども家庭福祉の専門職				
	第 8 回	子ども家庭にかかわる福祉・保健				
	第 9 回	児童健全育成				
	第 10 回	ひとり親家庭の福祉				
	第 11 回	児童虐待対策				
	第 12 回	非行児童・情緒障害児への支援				
	第 13 回	子どもと家庭にかかわる女性福祉				
	第 14 回	子ども家庭への援助活動				
	第 15 回	これまでのまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：			復習： 配布した資料や教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（60％）、課題（10％）、授業態度（30％）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。					
教 科 書	『保育者養成シリーズ 新版・児童家庭福祉論』（山崎順子・高玉和子・和田上貴昭編著、一芸社）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。					

科 目 名	音 楽 I (基 礎 音 楽)		単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公 尨
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、音楽教育技術を身につけることを目的とする。					
到達目標	1. ソルフェージュ（音感教育）をベースに、下記の訓練を通して唱歌・童謡における基本的な音楽要素を身につけ、ピアノ演奏及び歌唱等を教育現場で実践できる。 ①リズム唱、リズム叩き、リズム書き取り。 ②旋律歌唱、旋律書き取り。 ③和音書き取り。					
授 業 計 画	第 1 回	楽典① 譜表			第 16 回	主要 3 和音と調音
	第 2 回	楽典② 音名・階名			第 17 回	全音符・休符、2 分音符・休符を含む書き取り
	第 3 回	楽典③ 楽語・音程・調について			第 18 回	4 分音符・休符、8 分音符・休符を含む書き取り
	第 4 回	楽典④ 音・休符の種類と和音について			第 19 回	16 分音符・休符、付点音符を含む書き取り
	第 5 回	リズムの基本① 全音符・休符、2 分音符・休符			第 20 回	3 連符及び他の連符を含む書き取り
	第 6 回	リズムの基本② 4 分音符・休符、8 分音符・休符			第 21 回	タイを含むリズムの書き取り
	第 7 回	リズムの基本③ 16 分音符・休符、付点音符を含む			第 22 回	タイを含む旋律の書き取り
	第 8 回	リズムの基本④ 3 連符及び他の連符			第 23 回	異なった複数のリズムをもつ旋律の書き取り
	第 9 回	タイを含むリズム			第 24 回	主要 3 和音の書き取り
	第 10 回	異なった複数のリズム			第 25 回	主要 3 和音(転回形)書き取り
	第 11 回	リズムカノン唱			第 26 回	唱歌・童謡中の基本旋律（第 5 回、第 6 回）の書き取り
	第 12 回	リズムカノン叩き			第 27 回	唱歌・童謡中の基本旋律（第 7 回、第 8 回）の書き取り
	第 13 回	リズム諸楽器の解説			第 28 回	唱歌・童謡中の基本旋律（第 9 回、第 10 回）の書き取り
	第 14 回	リズム諸楽器の実践			第 29 回	唱歌・童謡中の基本旋律（第 5 回～第 10 回）の書き取り
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： リズムの名称とその意味及び音名（ラテン・伊・仏によるドレミ読み、日本語読み、英米語読み）を確実に覚える。			復 習： 学習したリズムを一定の拍子に基づいて叩く練習を行う。 ピアノ練習曲テキストの両手の旋律のリズムのみを叩く練習を行う。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20％）、課題（30％）、実技（30％）、授業態度（20％）					
教科書	『新・幼児の音楽教育』（井口太、朝日出版社）					
参考文献	『実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子、カワイ出版）					
注意事項	1. 講義内容を理解出来ないまま終わらせたくないので質問を歓迎する。（授業時間外でも可） 尚、授業中の私語・飲食は厳しく注意する。机の上に飲食物を置かないこと。 これらの注意に従わない者は学生証を提示の上、退室を命ずることがある。 2. 授業内でレポート・小テスト等を実施する予定。各自五線紙付きノートを用意すること。					

科 目 名	総 合 演 習 I				単位数	2	担当教員	そめやてつお はしもとようこ ほしのおさむ 染谷哲夫・橋本洋子・星野 治			
			授業形態		演習						
授 業 の 内 容	少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が十分に整えられているとはいえない。そこで、本演習では、3グループに分かれて子どもを取り巻く実状を様々な視点から捉え、理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養う。また、次年度に開講される総合演習Ⅱ（卒業研究）のテーマや作業方針を決めるためのヒントを習得する。										
到 達 目 標	1．子どもの造形活動について主体的に学び理解を深めることができる。 2．文献検索及び発表を通して保育者として必要な知識・情報を得るための適切な手段を身につけている。 3．弱者を守ることの意味を考えながら、防災に対する心構えを習得している。										
授 業 計 画	第 1 回	合同授業 本演習のねらい・進め方などに関する説明				第 16 回	(橋本)	(星野)	(染谷)		
	第 2 回	(染谷) 自然と子どもの造形表現①	(橋本) 子どもの健康 食生活の現状	(星野) 防災の基礎知識	第 17 回	第 2 週 ～第 9 週 と同じ				第 2 週 ～第 9 週 と同じ	第 2 週 ～第 9 週 と同じ
	第 3 回	自然と子どもの造形表現②	健康を考える	文芸作品と防災①	第 18 回						
	第 4 回	造形表現の発達①	論文の検索と読み方	文芸作品と防災②	第 19 回	合同授業					
	第 5 回	造形表現の発達②	文献調査	保育と防災	第 20 回	(星野)	(染谷)	(橋本)			
	第 6 回	造形表現の発達③	文献調査	文芸作品と防災③	第 21 回						
	第 7 回	造形教材研究①	研究発表①	文芸作品と防災④	第 22 回						
	第 8 回	造形教材研究②	研究発表②	防災関連の最新情報	第 23 回						
	第 9 回	造形教材研究発表	研究発表③ 演習まとめ	演習まとめ	第 24 回						
	第 10 回	合同授業							第 25 回		
	第 11 回	(橋本)	(星野)	(染谷)	第 26 回						
	第 12 回				第 27 回						
	第 13 回				第 28 回	合同授業：総合演習Ⅱ（卒業研究）への準備、その他					
	第 14 回				第 29 回	合同授業					
	第 15 回				第 30 回	合同授業 全体のまとめ					
	授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習および復習：ラウンド毎に研究発表を行う。授業時間内で準備できない場合、教員の指示にしたがい期日までに課題を済ませておくこと									
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（４０％）、発表（４０％）、授業態度（２０％）										
教 科 書	必要に応じて随時紹介										
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介										
注 意 事 項	グループ毎の演習 8 回を 1 ラウンドとするオムニバス形式が中心となる。各ラウンドの担当教員の指導にしたがうこと。										

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	そめや てつお 染谷 哲夫
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。美術・図画工作・造形に関する分野についての研究であり、主なテーマとしては、『絵本や紙芝居の研究・制作』『手作りおもちゃの研究・制作』『教材研究について』『子どもの造形表現活動について』『造形教育の歴史』等である。						
到 達 目 標	1. 各自のテーマに基づいて主体的に研究論文をまとめることを通じ保育者として必要な専門的知識をさらに深めることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	授業の進め方と年間計画			第 16 回	後期授業の進め方	
	第 2 回	研究テーマの選定①			第 17 回	研究・制作⑥	
	第 3 回	研究テーマの選定②			第 18 回	研究・制作⑦	
	第 4 回	研究テーマの選定③			第 19 回	研究・制作⑧	
	第 5 回	研究テーマの決定・計画			第 20 回	研究・制作⑨	
	第 6 回	文献・資料収集①			第 21 回	研究・制作⑩	
	第 7 回	文献・資料収集②			第 22 回	研究・制作⑪	
	第 8 回	文献・資料収集③			第 23 回	研究・制作⑫	
	第 9 回	研究の視点・構成①			第 24 回	研究成果 修正とまとめ①	
	第 10 回	研究の視点・構成②			第 25 回	研究成果 修正とまとめ②	
	第 11 回	研究・制作①（中間発表）			第 26 回	研究成果 修正とまとめ③	
	第 12 回	研究・制作②			第 27 回	研究成果 修正とまとめ④	
	第 13 回	研究・制作③			第 28 回	研究成果 発表①	
	第 14 回	研究・制作④			第 29 回	研究成果 発表②	
	第 15 回	研究・制作⑤（前期まとめ）			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 問題意識を持ちながら積極的に取り組む。				復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60％）、発表（10％）、授業態度（30％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	必要に応じて案内						
注 意 事 項	自分の研究テーマを明確にし、3年間のまとめとして充実した研究となるよう期待している。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマは食や健康など日常生活全般にわたる。						
到 達 目 標	１．子どもを取り巻く生活環境を理解している。 ２．研究テーマをみつけ様々な角度から情報を収集し検証する力を身につけている。 ３．調査結果等から疑問を解決し、まとめる力を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と進め方について			第 16 回	論文の執筆・フィールドワーク	
	第 2 回	各学生により研究テーマの選定・計画①			第 17 回	論文の執筆・フィールドワーク	
	第 3 回	各学生により研究テーマの選定・計画②			第 18 回	論文の執筆・フィールドワーク	
	第 4 回	各学生により研究テーマの選定・計画③			第 19 回	論文の執筆・フィールドワーク	
	第 5 回	文献・資料収集、観察①			第 20 回	論文の執筆・データ解析	
	第 6 回	文献・資料収集、観察②			第 21 回	論文の執筆・データ解析	
	第 7 回	文献・資料収集、観察③			第 22 回	論文の執筆・データ解析	
	第 8 回	先行研究の発表①			第 23 回	論文の執筆・データ解析	
	第 9 回	先行研究の発表②			第 24 回	論文の執筆・データ解析	
	第 10 回	先行研究の発表③			第 25 回	論文の修正①	
	第 11 回	研究内容の方向づけ①			第 26 回	論文の修正②	
	第 12 回	研究内容の方向づけ②			第 27 回	論文の修正③	
	第 13 回	論文執筆の説明			第 28 回	論文発表	
	第 14 回	論文内容の検討①			第 29 回	論文発表	
	第 15 回	論文内容の検討②			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 配布資料および収集した論文等は次回の授業までに予め目を通しておく。				復習： 配布資料、研究内容をまとめ研究計画を見直しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70％）、発表（20％）、授業態度（10％）						
教 科 書	なし （必要に応じて資料を配布）						
参 考 文 献	なし （必要に応じて資料を配布）						
注 意 事 項	保育者としての視点から、「食」や「健康」をはじめとした自然科学の分野においてテーマをもち、文献研究や観察研究をすすめ、論文としてまとめていく。演習生それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	かがや つかふみ 加賀谷 崇文
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。						
到達目標	1．各自の興味に沿った研究テーマを見出し、論文を完成させる。 2．保育に関する自分なりの視点を持つ。 3．自分自身の考えを言語化できる。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と年間計画				第 16 回	論文の執筆①
	第 2 回	各学生によるテーマの選定①				第 17 回	論文の執筆②
	第 3 回	各学生によるテーマの選定②				第 18 回	論文の執筆③
	第 4 回	各学生によるテーマの選定③				第 19 回	論文の執筆④
	第 5 回	文献の収集①				第 20 回	論文の執筆⑤
	第 6 回	文献の収集②				第 21 回	論文の執筆⑥
	第 7 回	文献の収集③				第 22 回	論文の執筆⑦
	第 8 回	先行研究の発表①				第 23 回	論文の執筆⑧
	第 9 回	先行研究の発表②				第 24 回	論文の執筆⑨
	第 10 回	先行研究の発表③				第 25 回	論文の執筆⑩
	第 11 回	先行研究の発表④				第 26 回	論文の修正①
	第 12 回	先行研究の発表⑤				第 27 回	論文の修正②
	第 13 回	論文執筆の説明				第 28 回	論文発表会
	第 14 回	論文内容の検討①				第 29 回	論文発表会
	第 15 回	論文内容の検討②				第 30 回	まとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 学生生活の中で常に自身の興味があるテーマについて模索する。				復習： 授業中に受けた指導を元に次回の授業までに必ず研究を進める。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30％）、授業態度（70％）						
教科書	なし						
参考文献	なし						
注 意 事 項	授業中の作業は卒業研究を行うための補助的なものであり、授業以外の時間帯に研究を行うこと。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公壹
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。						
到 達 目 標	1. 論文口調で文章を書くことができる。 2. 要約・縮約の技術を身につけている。 3. 論文の書式（文献表等の書き方）を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション			第 16 回	中間報告④ 洋書文献・その他の書式	
	第 2 回	音楽領域研究の方法① 洋楽			第 17 回	論文の推敲① 論文口調は整っているか	
	第 3 回	音楽領域研究の方法② 日本音楽			第 18 回	論文の推敲② 各題における全体の配分	
	第 4 回	音楽領域研究の方法③ その他の音楽			第 19 回	論文の推敲③ 要旨を的確に記述しているかどうか	
	第 5 回	テーマの設定とグループ分け			第 20 回	最終報告① 注釈・引用文・引用法	
	第 6 回	テーマの決定			第 21 回	最終報告② 参考文献の本文中の示し方	
	第 7 回	テーマに関する図書研究① 図書館の機能と検索法			第 22 回	最終報告③ 従来型の示し方	
	第 8 回	テーマに関する図書研究② 秋草学園図書館			第 23 回	最終報告④ 近年型の示し方	
	第 9 回	テーマに関する図書研究③ 外部図書館			第 24 回	卒業論文指導① インターネット資料の表記	
	第 10 回	資料検索と論文書式① 資料検索法			第 25 回	卒業論文指導② 新聞記事の表記	
	第 11 回	資料検索と論文書式② 検索資料の確認			第 26 回	卒業論文指導③ 書名をどのように表記するか	
	第 12 回	資料検索と論文書式③ 参考引用資料の書式法			第 27 回	卒業論文指導④ 引用文献一覧の作成	
	第 13 回	中間報告① 概要			第 28 回	卒業論文指導⑤ 参考文献一覧の作成	
	第 14 回	中間報告② 文献について			第 29 回	卒業論文報告	
	第 15 回	中間報告③ 文献の書式			第 30 回	レジュメ発表	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 新聞の特に社説欄を熟読すること。				復 習： 社説の読後、その内容を要約・縮約する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100％）						
教 科 書	なし （毎時プリントを配布）						
参 考 文 献	『日本語練習帳』（大野晋、岩波新書）						
注 意 事 項	1. 自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。 2. 論文完成までのマクロ的な計画を立てて進めること。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 主な研究テーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児・家族に関すること」などである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめる。						
到達目標	1．学生が興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究の検討から問題の所在を明らかにできる。 2．インタビューや文献調査などの方法により必要な資料収集および考察を進め、卒業論文としてまとめることができる。 3．論文発表を通じて、保育にまつわる様々な課題について理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と年間計画			第 16 回	調査の実施に向けた準備①	
	第 2 回	フィールドワークの方法① 観察法			第 17 回	調査の実施①	
	第 3 回	フィールドワークの方法② インタビュー調査			第 18 回	調査の実施②	
	第 4 回	フィールドワークの方法③ 質問紙調査			第 19 回	結果の整理①	
	第 5 回	研究テーマの選定			第 20 回	結果の整理②	
	第 6 回	研究テーマについて必要な文献を集める①			第 21 回	考察を進める①	
	第 7 回	研究テーマについて必要な文献を集める②等			第 22 回	考察を進める②	
	第 8 回	先行研究の検討①			第 23 回	考察を進める③	
	第 9 回	先行研究の検討②			第 24 回	結論および今後の課題の検討①	
	第 10 回	問題の所在を明らかにする①			第 25 回	結論および今後の課題の検討②	
	第 11 回	問題の所在を明らかにする②			第 26 回	研究のまとめ①	
	第 12 回	中間報告① 前半グループの発表			第 27 回	研究のまとめ②	
	第 13 回	中間報告② 後半グループの発表			第 28 回	論文発表①	
	第 14 回	子ども関連施設の見学			第 29 回	論文発表②	
	第 15 回	子ども関連施設の見学			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 研究テーマ設定のための下調べをすること、文献や資料に目を通すこと、課題をこなすことが必要である。				復習： 課題についての修正や論文の執筆作業を進めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70％）、発表（20％）、授業態度（10％）						
教科書	なし						
参考文献	『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書） 『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）						
注意事項	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待したい。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 研究テーマ 1．発達心理学など、子どもや保育・教育に関わる心理学全般 2．「子育て支援」に関する分野 3．「教育・保育相談」、「カウンセリング」などの分野						
到達目標	1．卒業研究（卒業論文）の作成を通して、研究の方法を修得し、学生個々が選んだテーマに関する見識を深めている。						
授 業 計 画	第1回	本ゼミの方針と年間計画			第16回	論文執筆①	
	第2回	論文作成についての概説			第17回	論文執筆②	
	第3回	各学生による研究テーマの選定①			第18回	論文執筆③	
	第4回	各学生による研究テーマの選定②			第19回	論文執筆④	
	第5回	各学生による研究テーマの選定③			第20回	論文執筆⑤	
	第6回	各学生による研究テーマの選定④			第21回	論文執筆⑥	
	第7回	文献・資料収集①			第22回	論文執筆⑦	
	第8回	文献・資料収集②			第23回	論文執筆⑧	
	第9回	文献・資料収集③			第24回	論文の修正①	
	第10回	卒論計画の発表①			第25回	論文の修正②	
	第11回	卒論計画の発表②			第26回	論文の修正③	
	第12回	卒論計画の発表③			第27回	論文の修正④	
	第13回	論文執筆の説明			第28回	論文発表会①	
	第14回	論文内容の検討①			第29回	論文発表会②	
	第15回	論文内容の検討②			第30回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 研究テーマを決定し、卒業研究作成スケジュール等を理解する。				復習： 卒業研究の作成。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（70％）、発表（30％）						
教科書	なし						
参考文献	随時紹介						
注意事項	論文提出の締め切りは12月中旬（予定）、論文提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	あさぎ　なおみ 浅木　尚実
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行う。論文提出後には発表会が行い、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。主な研究テーマとしては、児童文化、児童文学、保育内容、遊び、育児・家族支援等を中心とする。						
到 達 目 標	１．学生が自らの興味・関心に基づき、研究テーマを見出すことができる。 ２．先行研究を検討し、問題の所在を明確化することができる。 ３．テーマに沿った文献収集を行うことができる。 ４．インタビュー、文献調査等の方法により、場合によってフィールドワークを行い、考察することができる。 ５．卒業論文の形式を学び、調査、研究した内容をまとめることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と年間計画			第 16 回	論文作成の準備①	
	第 2 回	研究テーマについての講義①			第 17 回	論文作成の準備②	
	第 3 回	研究テーマについての講義②			第 18 回	論文作成の準備③	
	第 4 回	研究テーマについての講義③			第 19 回	論文作成の準備④	
	第 5 回	学生によるテーマの選定①			第 20 回	論文作成①	
	第 6 回	学生によるテーマの選定②			第 21 回	論文作成②	
	第 7 回	学生によるテーマの選定③			第 22 回	論文作成③	
	第 8 回	先行研究の検討			第 23 回	論文作成④	
	第 9 回	先行研究の発表			第 24 回	論文作成⑤	
	第 10 回	文献調査①			第 25 回	論文作成⑥	
	第 11 回	文献調査②			第 26 回	論文修正①	
	第 12 回	関連施設の見学①			第 27 回	論文修正②	
	第 13 回	関連施設の見学②			第 28 回	論文発表会①	
	第 14 回	中間発表①			第 29 回	論文発表会②	
	第 15 回	中間発表②			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　自分の興味のある研究テーマについて模索すること。 文献資料を収集し、目を通すこと。				復習：　課題について、教員から受けた指導に従って、研究、修正等を適宜行うこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（７０％）、課題（１０％）、発表（１０％）授業態度（１０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	その都度紹介する						
注 意 事 項	１．授業時間を有効に使うことはもとより、授業以外の時間の研究も行う必要がある。 ２．指導教員の指導は、決められた時間内に受けること。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業研究（論文もしくは作品の作成）を行う。 講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。 卒業研究成果物の提出後には、各ゼミナール単位での発表会が行われる。						
到 達 目 標	１．“保育・幼児教育の専門家”としての将来の自分自身を想定した「災害サバイバルシミュレーション」の実行を通して、いつ現実化するかわからない災害に遭遇した際の心構えを体得できるようになる。 ２．上記シミュレーションの結果を卒業研究の成果物として整理することにより、特に防災の観点からみて保育者に必要とされる知見・知識・経験の詳細を、具体的に確認することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	前期ガイダンス 演習の目的や授業の進めかた等々についての説明			第 16 回	後期ガイダンス 演習目的の確認、シミュレーションについての説明、その他	
	第 2 回	研究の前準備① 「地域保育基礎講座」の復習（第 0 講～第 2 講）			第 17 回	研究の前準備⑬ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解	
	第 3 回	研究の前準備② 「地域保育基礎講座」の復習（第 3 講・第 4 講）			第 18 回	研究の前準備⑭ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解	
	第 4 回	研究の前準備③ 「地域保育基礎講座」の復習（第 5 講・第 6 講）			第 19 回	研究の前準備⑮ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解	
	第 5 回	研究の前準備④ 「地域保育基礎講座」の復習（第 7 講・第 8 講）			第 20 回	研究の前準備⑯ シミュレーションの練習	
	第 6 回	研究の前準備⑤ 「地域保育基礎講座」の復習（第 9 講・第 10 講）			第 21 回	研究の前準備⑰ シミュレーションの練習（前回の続き）	
	第 7 回	過去の卒業研究例の閲覧 本学科卒業生の作成した論文・作品の鑑賞			第 22 回	卒業研究① 本番のシミュレーションのための準備	
	第 8 回	研究の前準備⑥ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解			第 23 回	卒業研究② 本番のシミュレーションの開始	
	第 9 回	研究の前準備⑦ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解			第 24 回	卒業研究③ シミュレーションの継続（内容の増補改訂）	
	第 10 回	研究の前準備⑧ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解			第 25 回	卒業研究③ 各自のシミュレーション結果の中間発表	
	第 11 回	研究の前準備⑨ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 26 回	卒業研究④ シミュレーションの仕上げ、および説明文の準備	
	第 12 回	研究の前準備⑩ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 27 回	卒業研究⑤ シミュレーション(+説明文)の完成、および成果物の提出	
	第 13 回	研究の前準備⑪ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 28 回	卒業研究⑥ 各自の研究成果の発表および質疑応答	
	第 14 回	研究の前準備⑫ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 29 回	卒業研究⑦ 各自の研究成果の発表および質疑応答（前回の続き）	
	第 15 回	授業前半（第 1 回～第 14 回）のまとめ これまでの演習内容の総括および整理			第 30 回	全体のまとめ 通年の演習内容の総括および整理	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 「研究の前準備①～⑤」については、教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。その他、予習に必要な事項については、担当教員が随時指示する。			復 習： 復習に必要な事項については、担当教員が随時指示する。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（ 7 0 %）、発表（ 2 0 %）、授業態度（ 1 0 %）						
教 科 書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房） 上記は、本学入学年度に開講した地域保育学科必修授業「地域保育基礎講座」において、使用したテキストである（紛失もしくは廃棄した場合を除き、再度購入する必要はない）。						
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介						
注 意 事 項	１．他の授業と同じく、無断欠席や無断遅刻、無断早退などの「無断～」な言動は厳禁とする。 ２．架空イベントの詳細を頭の中で想起し整理するには、豊かな想像力および強い精神力が求められる。 ３．卒業研究の成果物（シミュレーション結果）は、「作品」として扱われる。 ４．提出締め切り後に成果物の修正を求められた場合、その修正作業に対する評価は「発表」に含まれる。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。						
到 達 目 標	１．文献講読により各自のテーマに応じた基礎的知識を主体的に学ぶことができる。 ２．資料収集やフィールドワークを取り入れながら論文執筆に取り組むことができる。 ３．「子どもをめぐる教育問題」「子どもの問題行動」「子ども観の変容」を中心としたテーマについて、自分なりの見解を説得的に論じることができるようになる。						
授 業 計 画	第 1 回	論文の書き方			第 16 回	論文の執筆	
	第 2 回	参考文献の探し方・資料収集の方法			第 17 回	論文の執筆	
	第 3 回	引用・注記の仕方・ネット情報の扱い方			第 18 回	論文の執筆	
	第 4 回	文献による基礎研究①			第 19 回	論文の執筆	
	第 5 回	文献による基礎研究②			第 20 回	論文の執筆	
	第 6 回	文献による基礎研究③			第 21 回	論文の執筆	
	第 7 回	研究テーマの選定および問題関心の検討①			第 22 回	論文の執筆	
	第 8 回	研究テーマの選定および問題関心の検討②			第 23 回	論文の執筆	
	第 9 回	研究テーマの選定および問題関心の検討②			第 24 回	中間発表	
	第 10 回	先行研究の検討①			第 25 回	論文の修正	
	第 11 回	先行研究の検討②			第 26 回	論文の修正	
	第 12 回	先行研究の検討②			第 27 回	論文の修正	
	第 13 回	中間発表			第 28 回	論文発表①	
	第 14 回	中間発表			第 29 回	論文発表①	
	第 15 回	中間発表			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 参考文献を通読し、疑問点や質問点を事前にまとめておくこと。 参考文献に関連する書籍・論文を調べ、講義の中で紹介できるよう準備する。				復習： 受講生内での意見交換をもとに、各自のテーマに関連する意見や文献情報を記録していくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70％）、発表（20％）、授業態度（10％） #提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	必要に応じて適宜紹介						
注 意 事 項	１．研究テーマに関する資料は、学生が築いたネットワークの中にも存在する。学生がこれまでに得てきた他者との繋がりの中から研究テーマを見つけることを重視する。 ２．日常生活で疑問に思ったことや悩んだ経験について、日ごろから記録をとっておくことを期待する。受講生が経験から得た感覚は、卒業研究の問題関心を見つけるうえで、貴重なヒントになるはずである。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。						
到 達 目 標	１．論文の作成方法を習得している。 ２．少人数のゼミナール形式で協調性を身につけている。 ３．論文作成を通して、保育者として必要な専門的知識を習得している。						
授 業 計 画	第 1 週	授業の進め方			第 16 週	研究論文の執筆 ①	
	第 2 週	文献、視聴覚教材による基礎研究 ①			第 17 週	研究論文の執筆 ②	
	第 3 週	文献、視聴覚教材による基礎研究 ②			第 18 週	研究論文の執筆 ③	
	第 4 週	テーマの設定 ①			第 19 週	研究論文の執筆 ④	
	第 5 週	テーマの設定 ②			第 20 週	研究論文の執筆 ⑤	
	第 6 週	文献、資料などの収集 ①			第 21 週	研究論文の執筆 ⑥	
	第 7 週	文献、資料などの収集 ②			第 22 週	研究論文の執筆 ⑦	
	第 8 週	文献、資料などの収集 ③			第 23 週	研究論文の執筆 ⑧	
	第 9 週	調査、研究の方法 ①			第 24 週	中間発表③	
	第 10 週	調査、研究の方法 ②			第 25 週	論文の修正 ①	
	第 11 週	論文の執筆について			第 26 週	論文の修正 ②	
	第 12 週	中間発表 ①			第 27 週	論文の修正 ③	
	第 13 週	中間発表 ②			第 28 週	論文発表 ①	
	第 14 週	論文の検討 ①			第 29 週	論文発表 ②	
	第 15 週	論文の検討 ②			第 30 週	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 毎週提示される課題に沿って、研究を各自で進めてくること。				復 習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（７０％）、発表（２０％）、授業態度（１０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。						

科 目 名	地 域 活 動 I			単位数	2	担当教員	そめやてつお　こしかわようこ 染谷哲夫・越川葉子
			授業形態	実習			
授 業 の 内 容	保育の専門家を目指して入学した１年次生が、本学科の理念の一つである「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、本学の所在地である所沢市を中心とする地域活動に参加することで、様々な人々と接し、保育者としての役割や地域の社会資源の重要性を理解する。活動後には、省察（振り返り）を行う。						
到 達 目 標	１．児童館、障害者関係施設、教育関係機関、行政等が実施する活動に年間を通じて参加することで、各種施設の特徴や地域とのつながりを理解している。 ２．子どもや障害児者、また彼らを取り巻く地域の社会資源への理解を深めている。 ３．子どもや障害児者、保護者への接し方を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション			第 16 回	後期講義の進め方について	
	第 2 回	地域活動の進め方①			第 17 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項①	
	第 3 回	地域活動の進め方②			第 18 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項②	
	第 4 回	地域活動の進め方③			第 19 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項③	
	第 5 回	地域活動の進め方④			第 20 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項④	
	第 6 回	活動参加者からの報告①			第 21 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑤	
	第 7 回	活動参加者からの報告②			第 22 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑥	
	第 8 回	活動参加者からの報告③			第 23 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑦	
	第 9 回	活動参加者からの報告④			第 24 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑧	
	第 10 回	活動参加者からの報告⑤			第 25 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑨	
	第 11 回	活動参加者からの報告⑥			第 26 回	冬休み中の地域活動の進め方	
	第 12 回	夏休み中の地域活動の進め方①			第 27 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑩	
	第 13 回	夏休み中の地域活動の進め方②			第 28 回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑪	
	第 14 回	夏休み中の地域活動の進め方③			第 29 回	報告書の作成	
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　活動先の歴史や特色を HP で確認をしておくこと。 活動先までの交通アクセスを調べ、自宅からの経路を把握しておくこと。			復習：　具体的な活動内容や活動で得たことがらをレポートにまとめること。 受講生の活動報告を聞き、自分とは異なる着眼点や実践例を共有すること。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（４０％）、課題（２０％）、授業態度（４０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	適宜紹介						
注 意 事 項	１．本科目は卒業要件である。 ２．活動は、土・日・祝日と長期休暇中に行う。 ３．指定回数の活動への参加と、活動の振り返りのためのレポート提出が求められる。 ４．「駅ボランティア体験会」（11 月初旬に本学で実施予定）への参加を必修とする。						

科 目 名	地 域 活 動 Ⅱ			単位数	2	担当教員	いとうあきよし　ほしのおさむ 伊藤明芳・星野 治
			授業形態	実習			
授 業 の 内 容	「地域活動Ⅱ」は「地域活動Ⅰ」での学びと実践を基礎にして第２年次に行う。具体的には、受講生自らが居住地域に活動場所を選定し、活動の依頼を行い、定まった場所(一か所)にて継続して活動を行うことを中心とする。そして、活動で得た記録、反省、気づき等をレポートに丁寧にまとめ、さらに、報告とディスカッションを通じて受講生同士で共有を図り、活動で得たものをより豊かにして全員の糧となるようにする。						
到 達 目 標	「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指すことが地域活動ⅠとⅡの共通のねらいである。 １． 地域の子育ての実態を理解している。 ２． 地域の子育てのニーズを学ぶ、をより深く実習し、課題を発見し考察を行える力を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション（導入）			第 16 回	事前指導⑤　基本マナーや課題の見直し等	
	第 2 回	事前指導①　活動場所の選定等			第 17 回	事前指導⑥　基本マナーや課題の見直し等	
	第 3 回	事前指導②　活動場所の選定等			第 18 回	地域活動⑥　受講生の居住地域にて	
	第 4 回	事前指導③　マナーや課題の設定等			第 19 回	地域活動⑦　受講生の居住地域にて	
	第 5 回	事前指導④　マナーや課題の設定等			第 20 回	地域活動⑧　受講生の居住地域にて	
	第 6 回	地域活動①　受講生の居住地域にて			第 21 回	地域活動⑨　受講生の居住地域にて	
	第 7 回	地域活動②　受講生の居住地域にて			第 22 回	地域活動⑩　受講生の居住地域にて	
	第 8 回	地域活動③　受講生の居住地域にて			第 23 回	事後指導⑤　注意事項等	
	第 9 回	地域活動④　受講生の居住地域にて			第 24 回	事後指導⑥　注意事項等	
	第 10 回	地域活動⑤　受講生の居住地域にて			第 25 回	事後指導⑦　振り返りとディスカッション等	
	第 11 回	事後指導①　注意事項等			第 26 回	事後指導⑧　振り返りとディスカッション等	
	第 12 回	事後指導②　振り返りとディスカッション等			第 27 回	事後指導⑨　振り返りとディスカッション等	
	第 13 回	事後指導③　振り返りとディスカッション等			第 28 回	事後指導⑩　一年生との合同検討会等	
	第 14 回	事後指導④　振り返りとディスカッション等			第 29 回	事後指導⑪　一年生との合同検討会等	
	第 15 回	前期のまとめと後期の学びへの助言			第 30 回	一年間の総合的まとめと今後の学びへの助言	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　活動場所に選定と依頼等を丁寧にこな い活動に臨む。				復習：　活動で得た学び等をまとめる。		
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（４０％）、課題（６０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	講義の際に随時紹介						
注 意 事 項	１． 本科目(実習)は卒業要件である。 ２． 活動場所は主に受講生それぞれの居住地域の施設、学校、行政等が実施する活動を受講生自ら選定し、依頼を行い、活動に参加する。 ３． 活動は、土日祝日と長期休暇中に行う。できるだけ一か所の場所で継続して複数回の活動を行う。						

科 目 名	保 育 原 理 II		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	保育原理Ⅰでの学びを踏まえ、以下の内容を中心に学ぶ。 ①保育者の専門性として子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で求められるもの ②乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応 ③保育所や幼稚園、認可外保育施設の現状や課題 ④子ども、保護者を取り巻く課題					
到 達 目 標	1. 子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で、保育者に求められる専門性を理解している。 2. 乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応を理解している。 3. 保育の現状や子ども・保護者を取り巻く課題を理解している。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	保育者の専門性① 子どもとのかかわりの中で求められるもの				
	第3回	保育者の専門性② 保護者とのかかわりの中で求められるもの				
	第4回	保育者の専門性③ 保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と研修				
	第5回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応① 健康と安全に関する留意事項				
	第6回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応② 乳児保育への対応				
	第7回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応③ 延長・夜間におよぶ子どもの保育				
	第8回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応④ 特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応				
	第9回	保育の現状と課題① 保育所の現状				
	第10回	保育の現状と課題② 幼稚園の現状				
	第11回	保育の現状と課題③ 認可外保育施設の現状				
	第12回	保育の現状と課題④ 保育の質と評価				
	第13回	保育の現状と課題⑤ 認定子ども園の設立と今後の展望				
	第14回	保育の現状と課題⑥ 子ども・保護者を取り巻く課題				
	第15回	まとめ、保育研究の視点				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。			復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70％）、レポート（20％）、課題（10％）					
教 科 書	『保育原理〔第3版〕（最新保育講座）』（森上史朗・若月芳浩、ミネルヴァ書房）					
参 考 文 献	授業において紹介					
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。					

科 目 名	保 育 の 心 理 学		単位数	1	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明 芳
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	本講義では、講義「発達心理学」の内容を踏まえて、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。 保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。					
到 達 目 標	これまで学んだ基礎的知識を復習し、新たな知見を学び、それらを使って、子どもや大人の心の発達理解と子育て支援にどのように活かせるのかを考え、実践できる。 １．発達心理学、教育心理学等の基本のおよび発展的知識を正確に習得している。 ２．学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション				
	第 2 回	保育の心理学の基礎① 発達理論の復習				
	第 3 回	保育の心理学の基礎② 発達理論の応用				
	第 4 回	保育の心理学の基礎③ 教育心理学理論等の復習				
	第 5 回	保育の心理学の基礎④ 教育心理学理論等の応用				
	第 6 回	知的機能				
	第 7 回	情緒				
	第 8 回	社会性				
	第 9 回	発達障害① 発達障害とは何か				
	第 10 回	発達障害② 発達障害の種類				
	第 11 回	発達障害③ 発達障害への対応				
	第 12 回	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫				
	第 13 回	家庭、保護者、他機関等との連携				
	第 14 回	保育者自身の心の健康				
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：			復習： 毎回、学んだ知識を正確に習得できるように授業ノートや参考文献等を丁寧に見直すこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60％）、レポート（40％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	『発達心理学』（越智幸一 編、大学図書出版，2015） 他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介					
注 意 事 項	１．講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、さまざまな知見等を保育の実践に活かすことを考える。 ２．受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。					

科 目 名	子 ども の 保 健 Ⅱ		単位数	1	担当教員	こいけ じゅんこ 小池 純子
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について、『子どもの保健Ⅰ』で得た知識を実践できるように演習を重ね、習得することを目的とする。 だっこ・おむつ替え等の養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容、心の問題や保護者への精神的サポートについて、演習を通して理解を深める。					
到 達 目 標	１．子どもの心と身体の健康・増進するために必要な知識を理解している。 ２．演習を通して、保育の現場で活かせる技術を身につけている。 ３．健康上の配慮が必要な子どもへの対応、保護者へのサポート方法を習得している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 演習に臨む姿勢 子どもの発育・発達の観察と評価① 発育・発達				
	第 2 回	子どもの発育・発達の観察と評価② 身体計測				
	第 3 回	子どもの健康観察と健康管理				
	第 4 回	子どもの養護と教育① 抱っこ・おんぶ・排泄				
	第 5 回	子どもの養護と教育② 清潔				
	第 6 回	子どもの養護と教育③ 沐浴・衣類の着脱・おむつ交換				
	第 7 回	子どもの養護と教育④ 栄養				
	第 8 回	子どもの生活習慣				
	第 9 回	体調不良の子どもへの対応① 発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛				
	第 10 回	体調不良の子どもへの対応② けいれん・脱水・頭痛・鼻汁・鼻閉				
	第 11 回	体調不良の子どもへの対応③ 感染性疾患・薬				
	第 12 回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応				
	第 13 回	子どもの心と体の健康づくりのために				
	第 14 回	望ましい保育環境と安全対策				
	第 15 回	保育における応急手当				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 授業計画を参考に教科書で内容を確認する。			復習： 授業で得た知識を確認する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（３０％）、課題（３０％）、実技（２０％）、授業態度（２０％）					
教 科 書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子、編集 創成社）					
参 考 文 献	必要時資料配付					
注 意 事 項	１．教科書、筆記用具を持参すること。 ２．漫然とただ参加するのではなく、子ども・保護者の心境をイメージしながら主体的に取り組むこと。					

科 目 名	子　ど　も　の　食　と　栄　養		単位数	2	担当教員	はしもと　　ようこ 橋　本　　洋　子
		授業形態	演習			
授　業　の 内　　　　容	私たちは「食べる」ことでからだに必要な栄養を摂取し、また適切な食生活によって健康を維持している。乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身についた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する大切なものとなる。食事は単に栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。					
到　達　目　標	１．健康な生活を営むために必要な栄養の知識と体の仕組みをを理解し適切な食生活をおくことができる。 ２．子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうための環境づくりに取り組むことができる。 ３．子どもを取り巻く食の様々な問題点から食教育の重要性を理解し実践力を身につけている。					
授　業　計　画	第 1 回	子どもの健康と食生活 健康・栄養とは		第 16 回	児童福祉施設における食事と栄養	
	第 2 回	子どもを取り巻く食環境① 子どもの心身の健康と食生活		第 17 回	配慮が必要な子どもの食と栄養① 疾病・体調不良など	
	第 3 回	子どもを取り巻く食環境② 子どもの食生活の現状と課題、食品の安全性		第 18 回	配慮が必要な子どもの食と栄養② アレルギー、エビイベントレーナー	
	第 4 回	からだと栄養① からだのはたらきと栄養、栄養素の基礎知識		第 19 回	配慮が必要な子どもの食と栄養③ 障がいのある子どもへの対応	
	第 5 回	からだと栄養② 食べ物のゆくえ～消化・吸収のいとなみ～(ビデオ)		第 20 回	こどもを取り巻く食環境③ いま子どもに必要な食環境を考える	
	第 6 回	からだと栄養③ からだのはたらきと栄養　まとめ・小テスト		第 21 回	献立作成：食品の選び方、栄養バランス	
	第 7 回	からだと栄養④ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本		第 22 回	食育① 食育の基本と内容：食育基本法、食育計画	
	第 8 回	子どもの発育・発達と食生活① 妊娠、胎児期の栄養		第 23 回	食育② 保育者としての食育を考える：実践例から学ぶ	
	第 9 回	子どもの発育・発達と食生活② 乳児期：乳汁栄養（母乳、人工栄養）、排泄		第 24 回	食育③ 食育計画の立案	
	第 10 回	子どもの発育・発達と食生活③ 乳児期：哺乳動作の発達（ビデオ）		第 25 回	子どもの栄養と食生活 まとめ・小テスト	
	第 11 回	子どもの発育・発達と食生活④ 離乳の意義と進め方		第 26 回	食育演習① 食育媒体とは：食育計画と媒体制作	
	第 12 回	子どもの発育・発達と食生活⑤ 摂食機能の発達　まとめ		第 27 回	食育演習② 媒体製作	
	第 13 回	子どもの発育・発達と食生活⑥ 幼児期の特徴と食生活		第 28 回	食育演習③ 媒体制作	
	第 14 回	子どもの発育・発達と食生活⑦ 学童期の特徴と食生活		第 29 回	食育媒体発表①	
	第 15 回	子どもの発育・発達と食生活⑧ まとめ・小テスト		第 30 回	食育媒体発表②	
授　業　に 対　す　る 予　習・復　習	予習：　　シラバスおよび授業内での指示にしたがい、事前にテキストに目を通しておく。			復習：　　配布資料およびノートをまとめ内容を確認すること。欠席した場合は、必ず次の授業前に資料を取りに来ること。		
成績評価の 方　　　　法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（70％）、課題・発表（20％）、授業態度（10％）					
教　科　書	『子どもの食と栄養　－演習－』（岡崎光子編、同文書院）					
参　考　文　献	『子どもの食と栄養演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介					
注　意　事　項	テキストを中心にビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体制作等も含む演習科目である。授業の指示にそった事前学習が必要となる。自身の食生活・健康も振り返り、いま保育者に期待されている食指導の大切さを考え、課題作成・発表に積極的に取り組んでほしい。試験は授業内にて前・後期に実施する。					

科 目 名	子どものための食育実習		単位数	1	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
		授業形態	実習			
授 業 の 内 容	子どもは、乳・幼児期の短期間にめざましい摂食機能の発達を遂げる。この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を実際に調理し試食することにより咀嚼機能の発達を理解し、乳幼児に関わる専門職としての適切な食指導・食支援の方法を学ぶ。基本的な調理の知識・技術を習得する。					
到 達 目 標	1．準備（計る・洗うなど）から片付けにいたる調理に必要な知識、技術を身につけている。 2．たんに「空腹を満たす食事」ではない、子どもの月齢と咀嚼機能に合った食品の選択、調理方法（適切な量・調理形態）を理解し実践できる。 3．「美味しく」「楽しい」かつ「安全な」食事を提供するための環境整備ができる。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション：調理室の使い方、調理の基本、おやつ				
	第2回	調乳・赤ちゃん人形				
	第3回	離乳食（準備食・5～6か月）				
	第4回	離乳食（7～8か月）、間食				
	第5回	離乳食（9～11か月）				
	第6回	離乳食（12～18か月）				
	第7回	幼児の食事（1～2才、3～5才）				
	第8回	幼児のおべんとう				
	第9回	妊産婦の食事				
	第10回	幼児の間食：食物アレルギーを考える				
	第11回	行事食				
	第12回	食育を考える				
	第13回	まとめ、レポート提出（第13週で終了）				
	第14回					
	第15回					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 毎実習前にオリエンテーション時の配布資料、前実習内容に目を通しておく。			復習： レポート作成により、実習内容の理解を深めておく。 （欠席した場合は次の実習前に必ず資料をとりにくこと）		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60％）、実技（20％）、授業態度（20％）					
教 科 書	なし （毎実習時に資料を配布）					
参 考 文 献	授業内にて随意紹介					
注 意 事 項	毎回2時限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、4～5人のグループに分かれて実習を行う。必要に応じてビデオ等の教材も使用する。実習毎に各自でレポートを作成、レポートは最後にまとめて提出する。グループ毎の実習となり欠席は他の学生に迷惑をかける。授業中の私語は円滑な実習のために禁止する。エプロン、三角巾を着用すること。調理、試食後にまとめるレポートは、子どもの発達をふまえて考察すること。					

科 目 名		社 会 的 養 護		単位数	2	担当教員	まんどろ あきお 萬 燈 章 雄	
			授業形態	講義				
授 業 の 内 容		社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのようにに関わり、支援していくのかを学習する。						
到 達 目 標		１．社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 ２．「子どもの最善の利益」とは何かについて習得している。 ３．社会的養護に携わる保育士の職務と倫理について習得している。						
授 業 計 画		第 1 回	オリエンテーション～「社会的養護」とは社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ					
		第 2 回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われてきたか					
		第 3 回	社会的養護問題の本質 育てられない家庭環境と社会構造の問題について学ぶ					
		第 4 回	社会的養護の仕組み 児童相談所を中心とした「措置」制度について学ぶ。「措置」と「契約」について					
		第 5 回	児童福祉施設の種類と専門職 適切な施設の選択、配置すべき専門職などを学ぶ					
		第 6 回	里親制度・親権と養子縁組について なぜ今里親委託推進なのか					
		第 7 回	社会的養護実践の枠組み（ケースワーク・グループワークなど） 個別対応から施設や地域での流れや取り組みについて学ぶ					
		第 8 回	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ 理解度チェックとレポート					
		第 9 回	アタッチメントについて 「子どもの安全基地」について学ぶ					
		第 10 回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する					
		第 11 回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について					
		第 12 回	今後の社会的養護の方向性 児童福祉法の総則改正と子どもの権利条約、「今後の社会的養護の将来像」について学ぶ					
		第 13 回	演 習Ⅰ 児童福祉施設での実践事例について学習する・保育士の役割や倫理についても学ぶ					
		第 14 回	演 習Ⅱ 事例研究 子どものルーツを知る権利について・学習する子どもの権利擁護について					
		第 15 回	子どもの最善の利益と権利擁護について 最終まとめ 理解度チェックとレポート					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習		予習： 事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。			復習： 配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。			
成績評価の方法		試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（３０％）、レポート（２０％）、発表（２０％）、授業態度（３０％）						
教 科 書		『社会的養護 [第４版]』（小池由佳 山縣文治 編著、ミネルヴァ書房）						
参 考 文 献		授業で適宜紹介						
注 意 事 項		１．評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。 ２．前半は主に講義形式ですが、後半は課題発表や事例研究など、なるべく授業に参加していただくことを予定しています。受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本プリント配布で授業をすすめますが、補足的にテキストを使います。						

科 目 名	相 談 援 助		単位数	1	担当教員	た め い し ま り お 為 石 摩 利 夫
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	家庭の抱える問題は多様化しており、その背景も含めて理解することが相談者を受け止め、信頼関係を構築することにつながっていく。また、問題が複雑に絡み合っている場合には、専門機関との連携した取り組みも必要である。相談援助の実践において信頼される援助者となるための知識・技術を学ぶ。					
到 達 目 標	保育現場における相談援助機能について学び、その必要性と事例を通じて対象者への理解を深める。 １．相談援助の必要性について理解している。 ２．相談援助の対象者の理解と受け止め、専門機関との連携の必要性を理解している。 ３．アセスメントの重要性と計画の見直しの必要性を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方と評価について理解する				
	第 2 回	相談援助の理論と意義 相談援助の理論の発展過程や意義について学ぶ				
	第 3 回	相談援助の機能 相談援助に求められる機能について学ぶ				
	第 4 回	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークの定義について学ぶ				
	第 5 回	保育とソーシャルワーク 保育士としての相談支援について理解する				
	第 6 回	相談援助の対象 児童・保護者・地域との関わり方を理解する				
	第 7 回	相談援助のプロセス① 相談援助の進め方について学ぶ				
	第 8 回	相談援助のプロセス② 相談援助の基本的技術について学ぶ				
	第 9 回	相談援助のプロセス③ 計画・記録、評価、見直しについて学ぶ				
	第 10 回	相談援助の関係機関 関係機関との協働について理解する				
	第 11 回	多様な専門職との連携 連携の意義について理解する				
	第 12 回	グループワーク① 事例分析（社会資源との連携）				
	第 13 回	グループワーク② 事例分析（虐待の予防と対応）				
	第 14 回	グループワーク③ 事例分析（障害のある子）				
	第 15 回	相談援助のまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 事前に教科書の内容を確認する。			復 習： 疑問点を明確にし、基本原則とその応用について考察する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（７０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	『基本保育シリーズ⑤ 相談援助』（松原康雄・村田典子・南野奈津子編集、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業中に適宜紹介					
注 意 事 項	１．地域社会では、家庭生活に様々な問題を抱えている家庭も多く、子どもはそうした環境に影響を受けながら成長していく。相談援助では、子どもの成長を保障するため、支援の対象となる家庭や保護者、社会環境を含めて理解することが基本となる。講義では相談援助の対象となる家庭の問題や社会環境等を通じて相談援助の必要性を理解するとともに、支援者としての在り方を事例検討を通じて学んでいく。 ２．成績評価のレポートでは、講義で学んだ家庭の理解と支援者として自らがどのように取り組むかを記述させ、授業態度と併せて評価する。					

科 目 名	家 庭 支 援 論			単位数	2	担当教員	きたざわ あきこ 北澤 明子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的、方法について学ぶとともに家族、家庭のあり方や保育者として必要な家庭支援について考えていく。						
到 達 目 標	１． 家族の意義とその機能について理解し、説明することができる。 ２． 現在の子育て家庭を取り巻く環境について理解し、どのような支援が必要かを考えることができる。 ３． 子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 ４． 子育て支援の実際について理解し、今後どのような支援をしていきたいか考えることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーションー授業の進め方・参考文献の紹介等ー					
	第 2 回	家庭の意義と機能					
	第 3 回	家族・家庭・子育ての歴史①ー江戸・明治までー					
	第 4 回	家族・家庭・子育ての歴史②ー昭和から現在までー					
	第 5 回	現在の家庭を取り巻く状況①ー図からの読み取りー					
	第 6 回	現在の家庭を取り巻く状況②ー読み取ったことから必要な支援について考えるー					
	第 7 回	子育て家庭支援の必要性					
	第 8 回	現在の子どもを取り巻く状況					
	第 9 回	子育て支援の法的根拠					
	第 10 回	我が国の子育て支援・政策					
	第 11 回	子育て支援の実際①ー保育所・幼稚園における子育て支援の取組ー					
	第 12 回	子育て支援の実際②ー地域における子育て支援の取組ー					
	第 13 回	子育て支援の実際③ーその他ー					
	第 14 回	保育の場における具体的な事例紹介					
	第 15 回	まとめー子どもを産むこと・育てるということについて考えるー					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 出された課題は授業の予習・復習をかねるので真摯に取り組むこと。				復 習： 授業で配布された資料を整理し、前回の授業内容を復習すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（８０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	『家庭支援論の基本と課題』（井村圭壯他、学文社）						
参 考 文 献	授業内で必要な参考文献を紹介していく。						
注 意 事 項	適宜、必要な資料を授業内に配布するので、配布された資料はファイリングして毎回授業に持参すること。						

科 目 名	保 育 内 容 総 論			単位数	1	担当教員	いしかわ のぶまさ 石河 信雅
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる實際を理解し、保育実践にいかにか臨むかを事例に基づきながら学んでいく。						
到 達 目 標	1．保育所・幼稚園（幼保連携型認定こども園）に関する基本的事項を理解している。 2．子どもの発達と保育内容との関連について理解している。 3．各領域と保育内容について理解し、実際の保育場面での在り方を理解している。 4．保育の實際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を再度見直すことができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義を理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自意欲化を図る。幼稚園・保育園の概要を知る。					
	第 2 回	幼稚園教育要領・保育園保育指針（幼保連携型認定こども園保育要領）に基づく基本的な内容「5 領域や養護」などについて概観し、「論」と「実践」の在り方を考察する。					
	第 3 回	保育の実際・遊びを中心とした生活。実際の保育場面を想定し、環境構成の重要性と遊びを通して子どもは成長し様々な学びをすることを学ぶ。					
	第 4 回	発達と保育内容。子どもの発達と保育内容との関連性を実践例を通して学ぶ。そのことにより、子どもの発達を認識し実践の場面でどのように活用するかを理解し、認識しておくことの重要性を理解する。					
	第 5 回	年齢相当の保育 2 ・ 3 歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する。					
	第 6 回	年齢相当の保育 4 ・ 5 歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する					
	第 7 回	環境と保育について学ぶ。保育は環境をとおして行うことが基本となることを理解し、環境構成の重要性を実際の例を通して学び、理解する。					
	第 8 回	絵本と保育。保育場面での紙芝居や絵本の読み聞かせ・素話の方法などを実体験することにより、その在り方を学び保育場面での活かし方を考察する。					
	第 9 回	望ましい保育者像。保育や保育者の質について考察し、どのような保育者を目指すかを考えていく。その際、共同的な学びを行い学生同士が他のものの考え方などを知り、お互いの学びを深める。					
	第 10 回	保育をめぐる最近の動向。特に少子化や地域社会の在り方の変容など子どもが育つ環境は大きく変貌し、今後も社会環境の変化は続いていく。そのような変化の動向を知る方法や変化への対応について考察する。					
	第 11 回	多様な保育ニーズ・・特に、気になる子の保育について学ぶ。近年幼児の社会も様々な外的要因から幼児の育ちに大きな影響が見受けられる。気になる子への保育の在り方を実践例をとおして学ぶ。					
	第 12 回	保幼小の連携について学ぶ。近年、小 1 プロブレムなどの課題が見受けられる。子どもたちは育ちの環境の変化に大きな戸惑いを見せている。子どもの育ちの環境や育ちの連続性について再考し、保幼小の連携について考察を深めていく。					
	第 13 回	保護者支援・地域との連携について学ぶ。核家族化などにより保護者の子育てへの支援が非常に重要になっている。支援の方法について事例をとおして学ぶ。また、地域社会との連携の在り方について事例をとおして学ぶ。					
	第 14 回	これからの保育に求められるもの。未来を生きる子どもたちを想像し、いまだどのような保育を行うことが必要なのかをこれまでの学びから考察し、保育の在り方を探求する。					
	第 15 回	まとめ・・学び続ける保育者へ・・保育環境は常に流動している。保育者はその流動性を感知し、常に学び、その学びを保育に活かしていかなければならない。今何をなすべきかを考え、行動できる保育者となれるよう自分自身を見直す。					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について様々な方法を駆使して学びを深めるようにすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50％）、レポート（30％）、授業態度（20％）						
教 科 書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』（チャイルド本社） ＜原本＞内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参 考 文 献	講義の中で随時提示する。						
注 意 事 項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。 特にチャイルド本社の物である必要はない。						

科 目 名		保 育 内 容 (健 康)		単位数	1	担当教員	いしかわ のぶまさ 石河 信雅
		授業形態		演習			
授 業 の 内 容	幼児期は生涯にわたる学びの基礎を培う重要な時期である。この重要な時期である乳幼児が「健康な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出そうとする力を養う」ために、乳幼児の発育発達の状態に対する援助の基本や保育者としての在り方などの基礎を学ぶことを目的とする。						
到 達 目 標	１．子どもの健全な心身の発達のために「遊び」は重要な要素を担っていることを理解している。 ２．子どもの食生活や基本的生活習慣の各年齢に合わせた発達過程を理解している。 ３．子どもの健康及び安全の確保について保育の実態から学び理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション。保育にとって、保育内容・健康若しくは健康の領域の重要性について理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自の意欲化を図る。					
	第 2 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考として、健康の領域で何を学ぶべきかを概観する。					
	第 3 回	子どもの身体と発達。子どもの身体の発達過程を学び理解する。乳幼児期は、発達において後戻りすることのできない重要な時期である、その重要な時期の保育を担うことの重要性を理解する。					
	第 4 回	子どもと遊び。子どもの遊びは、人格形成や脳の機能さらに人間関係作りそして健康な身体を形成するうえで非常に重要である。特に幼児期における遊び方について、実践をととして学ぶ。					
	第 5 回	子どもの遊び。子どもの遊びと開放感について実践をととして学び、今後の学びに結び付け家庭でも体を動かすことの重要性を実感し遊びの重要性を理解する。					
	第 6 回	遊びのお便りの作成。幼児期に遊びで形成される心身の形成、人間関係作り、脳の発達などを保護者にわかりやすく伝えるお便りを作成する。その中で、自分自身の学びを振り返り、学びの深淺を理解する。					
	第 7 回	子どもの遊びとコミュニケーション能力について。子どもの遊びは、その後のコミュニケーション能力の発達に欠かせない重要な面を持っている。コミュニケーションの在り方や遊びの中での育ちについて理解する。					
	第 8 回	子どもの食事について。乳幼児と食は非常に重要なテーマ（食育等）である。「子どもの貧困」が叫ばれる昨今、子どもの食生活に目を向けることは子どもの心身の健康保持にとって重要であることを理解する。					
	第 9 回	子どもの健康観察について。保育実践の中で、朝の子どもとの出会いは、子どもの心身の状態を観察するのに非常に重要な時間である。子どもの健康観察の方法そして、それを保育にいかにかすか等を事例をととして学び理解する。					
	第 10 回	子どもの基本的生活習慣について。子どもの基本的生活習慣は、年齢相応に発達をしていく。（個人差があることも含めて）基本的な発達の段階を学び、発達について理解する。					
	第 11 回	児童虐待等について。子どもの心身の健康状態の把握において、児童虐待の疑いも併せて観察する必要がある。不適切な養育・虐待等は早期に発見し適切な対応をとることが重要であることを事例をととして学び理解する。					
	第 12 回	安全への配慮と事故防止について。園児を保育する場合の基本として安心・安全な環境を整えることがある。園の瑕疵による事故はあってはならない。そのための、安全のあり方や保育者の目線等について理解する。					
	第 13 回	疾病及び衛生管理について。子どもたちは園では集団での生活になる。集団での生活では、様々な疾病への対応やけがの防止等配慮しなければならない事項が出てくる。その配慮事項や配慮についての留意点について理解する。					
	第 14 回	家庭との連携について。健康で安全な子どもの生活を見守るためには、家庭との連携は不可欠である。常に密接な連携を心がけるような取組の在り方を事例を通して学び理解する。					
	第 15 回	まとめ。子どもの健康は、生活の基盤であり、将来への投資にもなる。子どもたちが心身ともに健康な生活が送れるよう保育することが重要である。これまでの学びから、保育者を目指す学生がこれからどのような学びが必要かを理解する。					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 講義内容について再度見直し自分自身で身に付けるようにする。また、学びを広げることも重要である。自身の学びを深めるようにすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（５０％）、レポート（３０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』（チャイルド本社） ＜原本＞内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参 考 文 献	講義の中で随時提示する。						
注 意 事 項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。 特にチャイルド本社のものである必要はない。						

科 目 名	保 育 内 容（人 間 関 係）		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
			授業形態	演習		
授 業 の 内 容	保育所保育指針や幼稚園教育要領の領域の一つに、人とかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。講義では、領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識を押さえるとともに、乳児期、3歳児、4歳児、5歳児とそれぞれの発達過程において、どのように人とかかわりが育つのかを学ぶ。また、保護者への対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割を学ぶ。					
到 達 目 標	1．領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につけている。 2．単に人とうまく付き合えるとか集団にうまく順応できるということではなく、人と人とのところが深いところで結びつき、豊かな関わりがもてるような集団の育ちが目指される必要があることを理解している。 3．一人一人が十分に生かされる集団であることの大切さといった「人間関係」を捉えるのに必要な視点をもつことができる。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	自己理解と自己概念、「自分を知る」ところからはじめよう				
	第3回	社会・文化に生きる子ども				
	第4回	領域「人間関係」がめざすもの				
	第5回	領域「人間関係」の基礎知識				
	第6回	0・1・2歳児 乳児の保育における人とかかわり				
	第7回	3歳児 保育者が居場所				
	第8回	4歳児 自己主張と自己抑制 幼児期のなかよしとは？				
	第9回	5歳児 園生活の充実感を支えるもの				
	第10回	かけがえのない一人一人の存在				
	第11回	保護者とかかわり				
	第12回	保育者同士のかわり				
	第13回	かわりの育ちを「みる」				
	第14回	親しい人との体験が原動力になる				
	第15回	授業のまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。			復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70％）、課題（20％）、授業態度（10％）					
教 科 書	『保育内容 人間関係』（酒井幸子他著、萌文書林）					
参 考 文 献	授業において紹介					
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。					

科 目 名		保 育 内 容（環 境）		単位数	1	担当教員	きたざわ あきこ 北澤 明子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	本講では、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の基本的な考え方について学ぶ。また、様々な環境とかかわる子どもの具体的な事例から、子どもの環境とのかかわり方について考え、環境と主体的に関わっていくための保育者の役割について考えていく。						
到 達 目 標	１．環境を通して行う保育（教育）について説明することができる。 ２．幼稚園教育要領、保育所保育指針が示す「環境」のねらいや内容について説明することができる。 ３．身近な環境とのかかわりが子どもにどのような意義があるのかについて考えることができる。 ４．子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えることができる。環境を通して行う保育（教育）について説明することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーションー授業の進め方・参考文献等紹介ー					
	第 2 回	保育の基本と保育内容					
	第 3 回	法的に定められた「環境」に関すること・環境を通した保育（教育）について					
	第 4 回	保育における環境について考える①ービデオ視聴よりー					
	第 5 回	保育における環境について考える②ービデオ視聴より保育環境について班ごとに発表ー					
	第 6 回	保育内容・領域について					
	第 7 回	領域『環境』のねらいと内容について					
	第 8 回	身近な環境（人）とのかかわりー子どもが安心して環境とかかわるための保育者の役割とはー					
	第 9 回	身近な環境（もの）とのかかわり①ー子どもの遊びを広げる玩具についてー					
	第 10 回	身近な環境（もの）とのかかわり②ーアナログゲームで遊んでみようー					
	第 11 回	身近な環境（自然）とのかかわり①ー森のようちえんの実践から自然とのかかわりについて考えるー					
	第 12 回	身近な環境（自然）とのかかわり②ー身近な生命や環境のことについて考えるー					
	第 13 回	身近な環境（自然）とのかかわり③ー葉っぱのワークを通して自然の対象との多様な遊びについて考えるー					
	第 14 回	環境構成についてー保育室の環境構成ー					
	第 15 回	その他の環境について・保育内容「環境」のまとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 前回の内容の復習をして授業に臨むこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（８０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（原本） 』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』（豊泉尚美他、圭文社）						
注 意 事 項	必要な資料やレジュメは適宜、配布します。配布されたものを１冊にファイリングして毎回の授業の際に持参してください。						

科 目 名	保 育 内 容（言 葉）		単位数	1	担当教員	あさぎ　　な　お　み 浅木　　尚　実
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	乳幼児の言語発達が、周囲の大人とのコミュニケーションから多大な影響を受けることを理解する。乳幼児の言語発達の過程を生活や遊びの事例を通して学び、発達を促す方法を学ぶ。乳幼児が楽しく言葉を習得するための児童文化財についての知識や技術を学ぶ。					
到 達 目 標	１．乳幼児の言葉の発達過程を理解している。 ２．各月齢での発達と保育士の役割についての知識を習得している。 ３．言葉の発達を促す児童文化財について理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション				
	第 2 回	言葉の発達と環境①：赤ちゃんとのコミュニケーション能力				
	第 3 回	言葉の発達と環境②：いないいないばあ論				
	第 4 回	言葉の発達と環境③：わらべうたとマザリーズ				
	第 5 回	言葉の発達と環境④：１、２歳児の言葉の発達と保育士の役割				
	第 6 回	言葉の発達と環境⑤：３、４歳児の言葉の発達と保育士の役割				
	第 7 回	言葉の発達と環境⑥：５、６歳児の言葉の発達と保育士の役割				
	第 8 回	児童文化財と言葉 手袋人形制作①：デザインを考える				
	第 9 回	手袋人形制作②：制作する				
	第 10 回	聞く・話す：ストーリーテリングとは？				
	第 11 回	おはなしを語る　演習①：おはなしを聞く				
	第 12 回	おはなしを語る　演習②：おはなしを選ぶ				
	第 13 回	おはなしを語る　演習③：おはなしを語る				
	第 14 回	おはなしを語る　演習④：おはなしの振り返りをする				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　　教科書をよく読んでくる。 前回の授業の課題の準備をする。 おはなしを覚え、話れるように準備する。			復習：　　講義のノート进行まとめる。 おはなしの発表後、振り返りシートにまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（５０％）、作品（１０％）、発表（３０％）、授業態度（１０％）					
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）					
参 考 文 献	その都度紹介する					
注 意 事 項	手袋人形の材料を準備すること。（軍手、フェルト等）					

科 目 名		保育内容（音楽表現Ⅰ）		単位数	1	担当教員	にと う ひろみ 二藤 宏美
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育や幼児教育の現場ですぐに使える、年齢別の歌と身体表現、合奏表現を学習します。同時に自らのリズム感や音感、歌唱力、楽典の知識を磨きます。まとめとして、絵本の物語をもとに、歌とせりふによる表現劇を制作し、発表します。						
到 達 目 標	１．授業で扱う全ての歌と遊戯（身体反応）、合奏を覚え正しく表現できる。 ２．それぞれの曲に施された身体表現や合奏アレンジの特徴や意図を理解できる。 ３．グループ作業による表現活動と発表ができる。						
授 業 計 画	第 1 回	発声、視唱、リズム反応、読譜の基本練習と楽典（以降、適宜扱う）					
	第 2 回	リトミックについて 3 歳児の合奏① 発達段階の特徴と活動目標について					
	第 3 回	3 歳児の合奏② 楽曲の分析と実践（身体反応）					
	第 4 回	3 歳児の合奏③ 楽曲の分析と実践（器楽合奏）					
	第 5 回	4 歳児の合奏① 発達段階の特徴と活動目標について					
	第 6 回	4 歳児の合奏② 楽曲の分析と実践（身体反応）					
	第 7 回	4 歳児の合奏③ 楽曲の分析と実践（器楽合奏）					
	第 8 回	5 歳児の合奏① 発達段階の特徴と活動目標について					
	第 9 回	5 歳児の合奏② 楽曲の分析と実践（身体反応）					
	第 10 回	5 歳児の合奏③ 楽曲の分析と実践（器楽合奏）					
	第 11 回	3 拍子の楽曲、歌を伴わない身体表現					
	第 12 回	歌唱発表 絵本をもとに表現 歌作り					
	第 13 回	絵本をもとに表現① 合奏アレンジ					
	第 14 回	絵本をもとに表現② 身体表現と演出					
	第 15 回	グループ発表と講評					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 授業で扱う曲の楽譜を確認しておくこと。				復習： 授業で扱った内容はその日のうちに完全に覚えましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（３０％）、発表（３０％）実技（２０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	『リトミックであそぼう 器楽合奏編』（定成淡紅子、全音楽譜出版社）						
参 考 文 献	『きょうはみんなでクマがりだ』（マイケル ローゼン再話、評論社） 『はじめての楽典ブック』（長沼由美、二藤宏美、ヤマハミュージックメディア） 『幼児教育・保育士養成のための幼児の音楽教育』（音楽教育研究協会編）						
注 意 事 項	１．グループ作業や討論が中心です。協力し合い、学び合う態度をもちましょう。 ２．笑顔で積極的に自分を表現できるよう心がけ、この領域における自分の特技を何か一つ体得しましょう。 ３．教科書を忘れると欠席扱いになります。注意しましょう。						

科 目 名		保 育 内 容（造形表現Ⅰ）		単位数	1	担当教員	たけだ　まりえ 武田　真理恵
		授業形態		演習			
授 業 の 内 容		幼児の造形表現を意欲的に展開させるために必要な基礎知識や技能の習得、及び、幼児の成長に合わせた造形表現活動やあそびを通して、豊かな感性を育む筋道を学びます。					
到 達 目 標		１．制作活動を主体的に取り組むことができる。 ２．制作過程を大切にしながら、固定概念にとらわれない自分らしい造形表現活動ができる。 ３．基礎的知識や技能をもとに、多様に応用できる力と自信を身につけている。					
授 業 計 画		第 1 回	造形表現活動の取り組み方について				
		第 2 回	描く①　直線・曲線であそぶ（はじめてのクレヨン）				
		第 3 回	描く②　技法を楽しむ（クレヨン）				
		第 4 回	描く③　点であそぶ（はじめての絵の具）				
		第 5 回	描く④　技法を楽しむ（絵の具・クレヨン）				
		第 6 回	立体①　生活素材で手作りおもちゃ制作（紙皿・紙コップ）				
		第 7 回	立体②　生活素材で手作りおもちゃ制作（牛乳パック）				
		第 8 回	立体③　生活素材で手作りアナログゲーム制作				
		第 9 回	自然とふれあう①　自然物を使った制作				
		第 10 回	自然とふれあう②　季節を感じる制作				
		第 11 回	自然とふれあう③　光とあそぶ・万華鏡				
		第 12 回	自然とふれあう④　光とあそぶ・ステンドグラス				
		第 13 回	贈る　行事に合わせた贈り物を作る				
		第 14 回	編む・織る　リリアンあそび				
		第 15 回	造形表現活動のまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習		予習：　次回の授業の制作内容（制作案）を考えながら準備物を整える。			復習：　授業振り返りレポート作成と応用作品の制作。		
成績評価の方法		試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（２０％）、作品（４０％）、授業態度（２０％）					
教 科 書		『楽しい造形表現』（子どもの造形表現研究会　編著、圭文社）					
参 考 文 献		『クレヨンからはじめる幼児の絵画指導』（松浦龍子、黎明書房） 『おもちゃインストラクター入門』（日本グッド・トイ委員会監修、黎明書房）他 授業内で随時紹介					
注 意 事 項		１．作品等の提出期限を守ること。 ２．授業に必要な道具や材料は各自責任をもって準備すること。 ３．制作に要する材料費は本人負担。					

科 目 名	音 楽 I (ピ ア ノ)			単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公 彦 他
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	この授業では、保育現場で求められているピアノの演奏技術、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）、歌唱・伴奏法を学ぶ。各ピアノ担当につき6名前後のグループに分かれ、その半数が個別の実技指導を受ける。それ以外の半数はクラス授業でピアノ演奏に必要なとなる楽典やソルフェージュおよび保育現場で使用されているこどものうたについて学び、45分で交代する。						
到 達 目 標	1．基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を習得している。 2．実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3．保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕			第 16 回	臨時記号と半音階・季節のうた（春）弾き歌い① 教本 No.68～69	
	第 2 回	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8			第 17 回	16分音符を用いたリズム・季節のうた（春）弾き歌い② 教本 No.70～72	
	第 3 回	分散和音の伴奏形② 教本 No.9～16			第 18 回	イ短調の主要三和音・季節のうた（春）弾き歌い③ 教本 No.73～76	
	第 4 回	分散和音の伴奏形③・4分音符と8分音符 教本 No.17～24			第 19 回	6度・3度の重音・季節のうた（夏）弾き歌い① 教本 No.77～78	
	第 5 回	ハ長調の下属和音 教本 No.25～26			第 20 回	3連符・季節のうた（夏）弾き歌い② 教本 No.79～80	
	第 6 回	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27～32			第 21 回	ヘ長調よりハ長調への転調・季節のうた（夏）弾き歌い③ 教本 No.81	
	第 7 回	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33～38			第 22 回	3度の重音と8度の跳躍・季節のうた（秋）弾き歌い① 教本 No.82	
	第 8 回	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42			第 23 回	弱起の曲・季節のうた（秋）弾き歌い② 教本 No.83～84	
	第 9 回	高い音の練習 教本 No.43～46			第 24 回	ニ長調とニ短調の主要三和音・季節のうた（秋）弾き歌い③ 教本 No.85～86	
	第 10 回	3/8拍子と6/8拍子・生活のうたの弾き歌い① 教本 No.47～48			第 25 回	装飾音・季節のうた（冬）弾き歌い① 教本 No.87～90	
	第 11 回	付点4分音符を用いたリズム 生活のうたの弾き歌い② 教本 No.49～54			第 26 回	複付点音符・季節のうた（冬）弾き歌い② 教本 No.91	
	第 12 回	ハ長調の音階、生活のうたの弾き歌い③ 教本 No.55～58			第 27 回	季節のうた（冬）弾き歌い③ 教本 No.～92～94	
	第 13 回	ヘ長調の音階・生活のうたの弾き歌い④ 教本 No.59～61			第 28 回	マーチ、その他① 教本 No.～95～98	
	第 14 回	ト長調の音階・生活のうたの弾き歌い⑤ 教本 No.62～67			第 29 回	マーチ、その他② 教本 No.～99～102	
	第 15 回	これまでの授業のまとめと発表			第 30 回	マーチ、その他③ 教本 No.～103～107	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 限られた個人レッスンの時間を有効に活用できるよう、与えられた課題を中心に十分に練習をしたうえで受講する。				復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 課題（10％）、実技（60％）、授業態度（30％）						
教 科 書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項							

科 目 名	音 楽 II（ピ ア ノ）			単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公 壺 他
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	「音楽Ⅰ（ピアノ）」で学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を習得する。教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学び、各クラスを担当する約４名の教員より指導を受ける。						
到 達 目 標	１．「音楽Ⅰ（ピアノ）」で身につけた知識、演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション			第 16 回	季節のうた 9 月① 「とんぼのめがね」「つき」他	
	第 2 回	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他			第 17 回	季節のうた 9 月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	
	第 3 回	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他			第 18 回	季節のうた 10 月① 「やきいもグーチャーパー」「きのこ」他	
	第 4 回	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」他			第 19 回	季節のうた 10 月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	
	第 5 回	季節のうた 4 月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」			第 20 回	季節のうた 11 月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	
	第 6 回	季節のうた 4 月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他			第 21 回	季節のうた 11 月② 「夕やけこやけ」「たきび」他	
	第 7 回	季節のうた 5 月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他			第 22 回	季節のうた 12 月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他	
	第 8 回	季節のうた 5 月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他			第 23 回	季節のうた 12 月② 「ジングルベル」他	
	第 9 回	季節のうた 6 月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」他			第 24 回	季節のうた 1 月① 「お正月」「雪」他	
	第 10 回	季節のうた 6 月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他			第 25 回	季節のうた 1 月② 「雪のこぼろず」「雪のぺんきやさん」他	
	第 11 回	季節のうた 7・8 月① 「たなばたさま」「うみ」他			第 26 回	季節のうた 2 月① 「まめまき」「」他	
	第 12 回	季節のうた 7・8 月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他			第 27 回	季節のうた 2 月② 「春がきた」「どこかで春が」他	
	第 13 回	あそびのうた① 「グーチョコキパーでなにつくろう」他			第 28 回	季節のうた 3 月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他	
	第 14 回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他			第 29 回	季節のうた 3 月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」	
	第 15 回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他			第 30 回	コードネームを用いた伴奏づけ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため、授業に向けて各自 2～3 曲を選択し練習しておく。				復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 発表（３０％）実技（４０％）、授業態度（３０％）						
教 科 書	『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）						
参 考 文 献	必要に応じてプリントを配布						
注 意 事 項							

科 目 名	図 画 工 作			単位数	2	担当教員	そめや てつお 染谷 哲夫
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	子どもたちの造形活動（あそぶ・えがく・つくる）を理解し展開するために、保育者として必要な基礎的な知識や技術を学ぶことをねらいとする。						
到 達 目 標	１．造形に関しての基礎的な知識や技術を理解している。 ２．自分らしい表現をめざして主体的に取り組むことができる。 ３．子どもたちとともに造形活動を楽しめる豊かな感性を身につける。						
授 業 計 画	第 1 回	授業の主旨説明 出席カードの作成			第 16 回	平面表現のいろいろ（基礎）	
	第 2 回	スケッチブックに記名（文字のデザイン）			第 17 回	平面表現のいろいろ（応用）	
	第 3 回	造形活動の意義と目的			第 18 回	石ころアート（着色）	
	第 4 回	子どもの造形表現について理解			第 19 回	石ころアート（着色と表面仕上げ）	
	第 5 回	形のとらえ方と表現（視点、遠近）			第 20 回	ポップアップカードの仕組みについて	
	第 6 回	形のとらえ方と表現（明暗、陰影）			第 21 回	ポップアップカードの制作（試作）	
	第 7 回	色彩について（三原色・混色を中心に）			第 22 回	ポップアップカードの制作（本制作）	
	第 8 回	自分を見つめて描く（線描き）			第 23 回	ポップアップカードの制作（本制作）	
	第 9 回	自分を見つめて描く（線描き・着色）			第 24 回	切り紙（雪の結晶・星など）	
	第 10 回	自分を見つめて描く（着色）			第 25 回	版画について	
	第 11 回	立体（彫塑）について			第 26 回	スチレン版画（版をつくる）	
	第 12 回	紙粘土で動物をつくる（成形①） ※ 2 週にわたっておこなう			第 27 回	スチレン版画（刷り）	
	第 13 回	紙粘土で動物をつくる（成形②）			第 28 回	スチレン版画（刷り）	
	第 14 回	紙粘土で動物をつくる（着色）			第 29 回	段ボール額縁の制作	
	第 15 回	前期まとめ			第 30 回	まとめと自己評価	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 課題に対して資料等の準備及び構想を考える。				復習： 納得できる自己表現とするためには授業外での取り組みも必要。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 作品（５０％）、授業態度（５０％）						
教 科 書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）						
参 考 文 献	必要に応じて案内						
注 意 事 項	１．創作活動が中心となるため、自ら考えて手を動かさない限り何も生まれこない。作品重視ではないが誠実で完成度の高い作品づくりをめざす。提出期日を守る。 ２．制作に関する用具や材料費は個人負担。 アクリル絵の具・筆・パレット等は学校で一括購入予定（約３，５００円）、その他必要な物は自分で用意する。						

科 目 名	体育（幼児体育を含む）			単位数	2	担当教員	めい かおり 茗井 香保里
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児期に、正しい動き方を身につけたり、運動することの楽しさを経験することは、幼児の運動経験や健康生活を豊かに充実させることはもとより、これからの超高齢社会を健康に生活するための基礎となる。それらをふまえ、本講義では、幼児の発育発達の特性と幼児の動きづくりと運動あそびの重要性を理解することを目的とする。						
到 達 目 標	1．様々な遊具の特性を知り、それらを活用した運動遊びが実践できる 。 2． 巧技台の特性を理解し正しい動き方を身につけている 。 3． 目的にあった運動遊びや身体表現活動を開発できる 。						
授 業 計 画	第 1 回	基本の運動			第 16 回	自分の体を知る	
	第 2 回	簡単なルールのある運動あそび			第 17 回	心と身体の解放	
	第 3 回	フープを使った運動あそび			第 18 回	「曲線」の身体表現	
	第 4 回	短縄を使った運動あそび			第 19 回	「直線」の身体表現	
	第 5 回	長縄を使った運動あそび			第 20 回	「曲線」＋「直線」の身体表現	
	第 6 回	ボールを使った運動あそび			第 21 回	働く乗り物	
	第 7 回	生活用品を使った運動あそび			第 22 回	はらぺこあおむし	
	第 8 回	マットを使った運動あそび			第 23 回	ライフキャリア発達と健康	
	第 9 回	文献を使って運動遊びを調べる			第 24 回	「生涯健康」と運動遊び	
	第 10 回	簡単なルールのある運動あそびを創る			第 25 回	作品の創作① 動き	
	第 11 回	フープを使った運動あそびを創る 短縄を使った運動あそびを創る			第 26 回	作品の創作② 衣装	
	第 12 回	長縄を使った運動あそびを創る ボールを使った運動あそびを創る			第 27 回	作品の創作③ 音	
	第 13 回	マットを使った運動あそびを創る 生活用品を使った運動あそびを創る			第 28 回	作品を演じるとは、作品を観るとは	
	第 14 回	「生涯健康」と運動遊び			第 29 回	作品発表会	
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 教科書を読む。				復習： 授業内容をノートにまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（４０％）						
教 科 書	『生涯健康をめざした運動あそび』（茗井香保里、推敲舎）						
参 考 文 献	『子どもの運動・表現あそび～動きを通して育む心とからだ～』（宮下恭子他、大学図書出版）						
注 意 事 項	1．出席重視。 2．体操着を着用のこと。フード付上着、ジーンズパンツなどは避ける。肩にかかる髪は、結ぶこと。 3．運動靴をはき、裸足、スリッパ履きでは、受講しないこと。 4．意欲、関心、はプラスポイントとする。						

科 目 名	乳 児 保 育			単位数	2	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	乳幼児期における、発達の姿を心・体・生活等といった細かい項目に分けて明確に捉えることを目標とする。 特に保育現場における援助方法の概要を提供することにより、乳幼児期の大切さと保育の重要性の実感を高め、理論と実践を結びつけることを本講義のねらいとする。そのため、乳幼児期の心・体の発達と、その発達を支える保育援助の実践との理解を以下の授業計画に沿って深めていきたい。 また、保育士の専門性が求められている昨今、保育士資質向上へ向けて、学生個人個人が目標に照らし合わせて次の学びの第一歩として活用できるよう、講義内容を個別の添削指導により支援していく。						
到 達 目 標	１．乳幼児の発達を支える理論と、乳幼児期を支える保育現場の実践とを結びつけることができる。 ２．学生には毎回の講義におけるレポートを義務付けるため、毎回の講義において定めた各内容を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	生涯発達という捉え方			第 16 回	発達のながれ	
	第 2 回	乳幼児期① 発達の法則・考え方			第 17 回	人との関わりの発達と保育援助	
	第 3 回	乳幼児期② 新生児期と反射			第 18 回	保育所保育指針と保育援助	
	第 4 回	乳幼児期③ 新生児・乳児期の発達			第 19 回	「養護」と保育援助① 保育所保育指針より	
	第 5 回	乳幼児期④ 離乳食・食事の大切さ			第 20 回	「養護」と保育援助② 安全管理の視点より	
	第 6 回	発達の姿			第 21 回	「教育」と保育援助	
	第 7 回	睡眠の発達と保育援助			第 22 回	乳児期の母子相互作用	
	第 8 回	視覚の発達の保育援助			第 23 回	乳児期の重要性① 乳幼児期の保育	
	第 9 回	聴覚の発達と保育援助			第 24 回	乳児期の重要性② 乳幼児期の脳	
	第 10 回	知覚の発達と保育援助			第 25 回	乳児期の保育援助① 「人間」的発達の契機	
	第 11 回	情緒の発達と保育援助			第 26 回	乳児期の保育援助② あそびの視点	
	第 12 回	言葉の発達と保育援助① 言葉・語彙の発達			第 27 回	保護者支援	
	第 13 回	言葉の発達と保育援助② 絵本の力			第 28 回	保育者としての資質① 現場で求められる資質	
	第 14 回	認知の発達と保育援助			第 29 回	保育者としての資質② ビジネス・ライティング	
	第 15 回	まとめ①			第 30 回	まとめ②	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 毎回の講義の際に、次回の講義における予習課題を明示し、次回の講義の際提出する。			復 習： 講義終了後、講義の理解を深め、理解の度合いを学生個人個人が確認でき、習得に役立てるための復習課題をおこなう。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（５０％）、課題（５０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会）、『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）、『幼児教育と脳』（澤口俊之著、文芸春秋）、 『子どもの脳の発達臨界期・敏感期』（榎原洋一著、講談社）						
注 意 事 項							

科 目 名	障 害 児 保 育			単位数	2	担当教員	さいとう かずよし 齊藤 和良
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	この講義では、障害児保育の基本理念と意義を紹介し、視覚障害、聴覚障害、知的障害や発達障害などの各障害の原因や特性及び保育上の留意点について講義する。さらに障害児の援助方法や家庭支援、医療や福祉などの関係機関との連携のあり方について論究する。						
到 達 目 標	１． 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解している。 ２． 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について工夫できる。 ３． 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解している。 ４． 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス 障害児保育とは			第 16 回	発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴	
	第 2 回	障害とは 障害の概念、各障害の定義と分類			第 17 回	発達障害児の理解と援助 ② 自閉症スペクトラム障害について	
	第 3 回	障害者処遇の歴史的変遷 障害児・者の歴史的変遷と障害児の保育・教育			第 18 回	発達障害児の理解と援助 ③ 学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴	
	第 4 回	障害児保育を支える理念 統合保育、ノーマライゼーション、インクルージョン			第 19 回	病弱、身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援	
	第 5 回	障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味			第 20 回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度	
	第 6 回	特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場			第 21 回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援	
	第 7 回	視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴			第 22 回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携	
	第 8 回	聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助			第 23 回	障害児保育の実際 ① 障害児保育の目標とその形態	
	第 9 回	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類			第 24 回	障害児保育の実際 ② 保育所・幼稚園での支援体制とは	
	第 10 回	知的障害児の理解と援助 ① 知能指数とは、知的障害の定義・分類・原因			第 25 回	障害児保育の実際 ③ ケースカンファレンスと保育の評価	
	第 11 回	知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援			第 26 回	障害児保育の実際 ④ 行動観察による子どもの理解	
	第 12 回	言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導			第 27 回	障害児保育の実際 ⑤ 客観的評価による子どもの理解（スクリーニング検査）	
	第 13 回	情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性緘黙症やチックの心理的特徴			第 28 回	障害児保育の実際 ⑥ 心理検査による子どもの理解（発達検査・言語検査など）	
	第 14 回	情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害（PTSD）の心理的特徴			第 29 回	障害児保育にかかわる現状と課題 保健・医療・福祉・教育における現状と課題	
	第 15 回	前期の総括 及び小テスト			第 30 回	障害児保育の今後のあり方 総括と小テスト	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： シラバスに沿って、授業内容を教科書やインターネット等で調べ、あらかじめ把握しておくこと。				復 習： 授業で指摘した問題点や要点をまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（３０％）、レポート（２０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	『よくわかる障害児保育』（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編、ミネルヴァ書房）						
参 考 文 献	授業内で随時紹介						
注 意 事 項	１． 授業中の私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 ２． 授業への積極的な参加を期待する。						

科 目 名	保 育 所 実 習 I		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	実習			
授 業 の 内 容	保育所実習Ⅰは、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。前期実習では、保育所の役割と機能を理解する、子どもの発達や援助への理解を深める、保育内容や環境への理解を深める、保育の計画や記録・省察による保育の実際への理解を深めるといった内容を中心に学ぶ。					
到 達 目 標	1. 保育の意義や保育者の役割を理解している。 2. 子どもの発達を理解し、援助やかかわり方を理解している。 3. 子どもの発達過程に応じた保育内容、環境が理解している。 4. 観察と記録により、保育を理解している。					
授 業 計 画	前期保育所実習は、原則として第2学年の2月に実施する（2週間）。 見学・観察実習の主な内容 1. 保育所の役割と機能 ① 保育所の生活と一日の流れ ② 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 ① 子どもの観察とその記録による理解 ② 子どもの発達過程の理解 ③ 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 ① 保育の計画に基づく保育内容 ② 子どもの発達過程に応じた保育内容 ③ 子どもの生活や遊びと保育環境 ④ 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 ① 保育課程と指導計画の理解と活用 ② 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 ① 保育士の業務内容 ② 職員間の役割分担や連携 ③ 保育士の役割と職業倫理					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。			復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習施設による実習評価（50％）、実習日誌（30％）、実習課題（20％）					
教 科 書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業において紹介					
注 意 事 項	実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好でなければならない。常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。					

科 目 名	施 設 実 習			単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
			授業形態	実習			
授 業 の 内 容	施設実習は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習である。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがある。原則として、１１日間施設に宿泊又は通勤し、利用者と生活をともにしながら実習を行う。						
到 達 目 標	１．事前準備をしっかりと行い、実習施設について理解している。 ２．利用者一人一人への適切な支援のあり方を習得している。 ３．施設の機能を理解している。						
授 業 計 画	・実習施設の一日の生活の流れを知る。 ・保育者の一日の職務を知る。 ・利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。 ・自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。 ・衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。 ・日中活動における支援のあり方について学ぶ。 ・福祉施設における保育者の役割について学ぶ。 ・福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。 ・施設の機能について多様な視点から学ぶ。 ・福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。 ・利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 以上１１日間の学外実習をする。						
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 事前指導の受講が必須。				復 習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園評価（５０％）、実習記録（３０％）、実習課題（２０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	施設実習派遣には、「福祉施設実習研究」の履修が必要条件である。						

科 目 名	保 育 所 実 習 II		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	実習			
授 業 の 内 容	保育所実習Ⅱは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶ。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達へのかかわりを更に深め、保育者として職務内容や職業倫理についても理解を深める必要がある。					
到 達 目 標	１．子どもの生活や発達、保育者の役割をより一層理解している。 ２．指導計画の作成・実践・省察・評価から保育の過程を理解理解している。 ３．保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携を理解している。					
授 業 計 画	後期保育所実習は、原則として第３学年の９月に実施する（２週間）。 参加・責任実習の主な内容 - 保育所の役割や機能の具体的展開 - 養護と教育が一体となって行われる保育 - 保育所の社会的役割と責任 - 観察に基づく保育理解 - 子どもの心身の状態や活動の観察 - 保育者の動きや実践の観察 - 保育所の生活の流れや展開の把握 - 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 - 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 - 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援 - 地域社会との連携 - 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 - 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 - 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 - 保育士の業務と職業倫理 - 多様な保育の展開と保育士の業務 - 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 - 自己の課題の明確化					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 実習に向けて、指導何の作成など必要な準備を行うこと。			復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習施設による評価（５０％）、実習日誌（３０％）、実習課題（２０％）					
教 科 書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業にて紹介					
注 意 事 項	保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。					

科 目 名	児 童 館 実 習		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
		授業形態	実習			
授 業 の 内 容	児童館において約 10 日間の実習を行う。実習を通して、児童館・放課後児童クラブの現場で実際に業務を体験することで、児童館や放課後児童クラブの活動を理解するとともに、自分自身の適性を改めて見つめなおす。					
到 達 目 標	1．児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解している。 2．一日の活動プログラムを理解している。 3．職員、児童の家族、地域社会の連携を理解している。					
授 業 計 画	児童館実習の内容 ① 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解 ② 一日の活動プログラムの理解 ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム ③ 活動への参加 ・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習に入る。 ④ 職員、児童の家族、地域社会との関係の学習 ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ 以上、約 10 日間の校外実習を行う					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 事前指導の受講が必須。			復 習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習評価（８０％）、実習日誌（２０％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	童館実習派遣には、「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」、「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」、「児童館実習研究」の履修が必要条件である。					

科 目 名	保 育 所 実 習 研 究 I		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育所実習研究は、前期保育所実習（２年次２月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行っていく。					
到 達 目 標	１．保育所実習の意義や目標を理解している。 ２．子どもの観察や実習記録の意義や方法を理解している。 ３．実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備を行うことができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション				
	第 2 回	保育所実習の意義・目的の理解				
	第 3 回	前期実習の内容の理解				
	第 4 回	保育所についての理解				
	第 5 回	実習の心構え				
	第 6 回	実習に必要な書類の作成① 調査書				
	第 7 回	実習に必要な書類の作成② オリエンテーション報告書				
	第 8 回	実習課題を明らかにする				
	第 9 回	実習記録の意義の理解				
	第 10 回	実習記録の実際と方法① 保育所の概況、子ども・保育者・実習生の時系列記録				
	第 11 回	実習記録の実際と方法② 考察				
	第 12 回	実習に必要な実技の確認				
	第 13 回	オリエンテーションと実習中の心得				
	第 14 回	実習内容の振り返りとまとめ				
	第 15 回	後期保育所実習への課題を明確にする				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。			復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（６０％）、授業態度（３０％）、手続き（１０％）					
教 科 書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業において紹介					
注 意 事 項	授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。					

科 目 名		施 設 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生としての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。						
到 達 目 標	１．施設の種別、それぞれの機能について理解している。 ２．施設の種別ごとの利用者について理解している。 ３．施設実習に必要な知識や技能を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布					
	第 2 回	実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出					
	第 3 回	養育を必要とする福祉施設における実習					
	第 4 回	障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習					
	第 5 回	実習希望調査 配当資料の提出					
	第 6 回	養護系福祉施設における実習内容					
	第 7 回	障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容					
	第 8 回	実習課題について					
	第 9 回	実習書類の記入と提出					
	第 10 回	実習施設におけるオリエンテーションについて					
	第 11 回	実習施設研究					
	第 12 回	実習日誌の書き方					
	第 13 回	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等					
	第 14 回	実習直前指導、各種報告書の準備					
	第 15 回	実習評価、個別面談					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 福祉系、養護系テキスト等の熟読 児童福祉法や関連法規の復習。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（５０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）、実習書類提出（１０％）						
教 科 書	『福祉施設実習ハンドブック』（岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 編、株式会社みらい）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。						

科 目 名	保 育 所 実 習 研 究 Ⅱ		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育所実習研究Ⅱは、後期保育所実習（３年次９月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。					
到 達 目 標	１．実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備を行うことができる。 ２．指導案の立案と作成ができる。 ３．実習終了後に実習での学びの総括と評価を行い、保育についての課題を明確にできる。					
授 業 計 画	第 1 回	後期実習の目的・内容の理解				
	第 2 回	実習に必要な書類の作成① 調査書				
	第 3 回	実習に必要な書類の作成② オリエンテーション報告書等				
	第 4 回	実習課題を明らかにする				
	第 5 回	指導案作成上の基本の確認				
	第 6 回	指導案の立案① 幼児クラス主活動				
	第 7 回	指導案の立案② 幼児クラス生活場面				
	第 8 回	指導案の立案③ 未満児クラスの場合				
	第 9 回	指導案の立案④ 幼児クラスの場合				
	第 10 回	実習に必要な実技の確認				
	第 11 回	実習記録の実際と方法				
	第 12 回	実習内容の振り返りとまとめ				
	第 13 回	実習報告会の準備				
	第 14 回	実習報告会				
	第 15 回	実習の総括				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。			復 習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（６０％）、授業態度（３０％）、手続き（１０％）					
教 科 書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業において紹介					
注 意 事 項	指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。					

科 目 名	児 童 館 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館・放課後児童クラブの実際の活動内容を理解するため、先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習調査書の作成をはじめ、実習の目的やねらいの理解、オリエンテーション、日誌の記入方法、実習手続き書類の作成等の指導を行う。					
到 達 目 標	１．児童館実習の意義を理解している。 ２．児童館実習に必要な知識と技能を習得している。 ３．児童館、放課後児童クラブの特性と実習における課題を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	児童厚生員一資格の説明と取得までの手順の説明				
	第 2 回	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出				
	第 3 回	児童館実習の意義、目的の理解				
	第 4 回	児童館実習参加者の体験談を聞き、実習内容を理解する				
	第 5 回	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ				
	第 6 回	調査書の作成① 説明				
	第 7 回	調査書の作成② 下書き				
	第 8 回	調査書の作成③ 清書				
	第 9 回	実習日誌の記入の意義について				
	第 10 回	実習日誌の記入方法(例示)				
	第 11 回	オリエンテーションについて				
	第 12 回	指導案の概要と作成				
	第 13 回	細菌検査の方法とその方法				
	第 14 回	実習後の対応・礼状等一について				
	第 15 回	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習：				復 習： 実習後に、児童館からの評価を土台に、良かった点、反省点や今後の課題を明確にし、次の実習へとつなげていく。	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（３０％）授業態度（７０％）					
教 科 書	なし (授業でプリントを配布)					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	児童館実習派遣には、本授業の他に「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」と「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」の履修が必要条件である。					

科 目 名	国 語 教 育			単位数	2	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	幼児における国語教育は、「幼稚園教育要領」にある通り、「読む・書く」教育よりも、「聞く・話す」である為、コミュニケーションの基礎を学ぶ。幼児が文学を楽しめるような児童文化財を理解し、知識及び技術を習得する。学生自身の日本語力向上の為に、作文、熟語、漢字等を学ぶ。						
到 達 目 標	1． 幼児の成長を促す文学的なわらべうた、絵本、幼年文学を理解し、知識を習得している。 2． ことば遊びを通して、ことばの楽しさを理解している。 3． 伝統的な言語文化である昔話の特色を学び、小学校の国語への連携を理解している。 4． 紙芝居を創作し、脚本化することにより、国語の力を身につけている。						
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	絵本① 絵本の基本を学ぶ 漢字プリント①					
	第3回	絵本② 文章の読み方・絵の読み方を知る 漢字プリント②					
	第4回	絵本③ 名作絵本を鑑賞する 『ぐりとぐら』の魅力を考える 漢字プリント③					
	第5回	早口ことば、なぞなぞ、ことば遊び 作文を書く					
	第6回	詩、幼年文学を鑑賞する 漢字プリント④					
	第7回	敬語を学ぶ 手紙を書く					
	第8回	昔話の特色を学ぶ					
	第9回	昔話の分析をする					
	第10回	紙芝居とは何かを学ぶ					
	第11回	昔話のパロディ紙芝居を創作し、脚本化する					
	第12回	紙芝居制作① 絵コンテを作成する					
	第13回	紙芝居制作② 脚本を推敲する					
	第14回	紙芝居の発表					
	第15回	まとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 課題について準備を行う。				復習： 授業で紹介された絵本、幼年文学を多読する。 授業で紹介された参考文献を読む。 プリントの復習をする。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（４０％）、レポート（４０％）、発表（１０％）、授業態度（１０％）						
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）						
参 考 文 献	その都度紹介する						
注 意 事 項	グループによる学習に積極的に参加する。						

科 目 名	数 量 教 育		単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	この授業では、いわゆる算数・数学の授業（与えられた問題に対する解答の作成）とは異なり、算数・数学の教育方法のありかたを考える。 身の回りのあらゆる事象を「数」・「量」・「形」の観点から見つめ直すことを通して、「数」・「量」・「形」の意味するものや、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを考察する。					
到 達 目 標	１．私たちの社会が「数」・「量」・「形」を抜きにしては成り立たないことを確認している。 ２．幼少時から慣れ親しんできた「数」・「量」・「形」が、私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを理解している。 ３．幼稚園児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えられる。					
授 業 計 画	第 1 回	数の面白さ・不思議さ “数”のもつ魅力を概観する。				
	第 2 回	言葉としての数 “数”が言葉の一種であることを確認する。				
	第 3 回	数の種類 実際に使われている、いろいろな“数”を概観する。				
	第 4 回	数量と図形との関係 “かず”と“かたち”との対応を概観する。				
	第 5 回	生活の中の数・量・形 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観する。				
	第 6 回	遊びの中の数・量・形① いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観する。				
	第 7 回	数・量に関する先人の知恵① 実用されている様々な“単位”の意味を概観する。				
	第 8 回	数・量に関する先人の知恵② これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観する。				
	第 9 回	文芸作品の中の数・量・形① “数”の観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直す。				
	第 10 回	文芸作品の中の数・量・形② “数”の観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直す。				
	第 11 回	小・中学校の算数・数学① 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観する。				
	第 12 回	小・中学校の算数・数学② 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観する。				
	第 13 回	遊びの中の数・量・形② 数遊びそのものを通して、“数”の面白さを概観する。				
	第 14 回	幼児教育における数・量・形 未就学児にとって必要な“数”とは何かを見直す。				
	第 15 回	全体のまとめ 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理する。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習：	予習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。			復 習：	復習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（７０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	必要に応じて随時指定 また、プリントを随時配布					
参 考 文 献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『小学校学習指導要領』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（文部科学省）、その他必要に応じて随時紹介する。					
注 意 事 項	１．他の授業で使用する教科書や参考文献を、この授業でも使用する場合がある。 ２．この授業で取り扱う話題（問題）は、いわゆる算数・数学の問題とは異なり、解答が一つだけであるとは限らない。また、個々の話題の内容を理解するには、幅広い背景知識が求められる。“自分自身ならばこう考える”という能動的な態度で、授業に参加してほしい。					

科 目 名		保 育 者 論		単位数	2	担当教員	いしかわ のぶまさ 石河 信雅	
			授業形態	講義				
授 業 の 内 容	少子化、高齢化、情報化社会、知識基盤社会などと現代は表現されている。この様な、社会の変化に伴い保育や保育者の役割が変化しつつある。しかし、保育者はいつでも子どもと共に「過去」「現在」「未来」を生きていかなければならない。子どもと共に、保護者と共に、同僚や地域社会と共に生きることが重要である。そのためにも専門家としての職務、資質、専門性、現代社会における保育者の在り方等について、理解を深める。							
到 達 目 標	1. 保育の「質」について自分自身の考えを持つことができる。 2. 保育者を目指す身として「今」自分は何をしなければならないかをしっかり見据え、分析し、学びに取り組むことができる。 3. 保育者とは常に学び続けなければならない存在である、そのためにも学びの手法を身につけている。							
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション。本講義の到達目標をしっかりと確認し、これからの学びについての心構えを持つようにする。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自の意欲化を図る。						
	第 2 回	保育の質について。保育の質について、各種の「論」を考察し、これから目指すべき幼稚園や保育園等での保育の質について様々な考えがあることを理解する。						
	第 3 回	保育者の質について。保育の質について理解し、その保育を実践する保育者とはどの様であるべきか、その質とはどのようなものかを理解し、これからの学びを自分自身の成長に資するよう意欲化を図る。						
	第 4 回	先人の教えに学ぶ。先人の教えなどにより保育のあるべき姿について考察し、保育者としてあるべき姿を描き、実践者としての質を高めるための方法を理解する。						
	第 5 回	保育の基礎。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考に、保育の実際や保育の基本について理解する。						
	第 6 回	保育者として行うべき仕事について。保育者として、実際に行うべき仕事について実践事例から学ぶ。特に、幼稚園前期実習前でもあるので実習において何を学ぶべきかを理解する。						
	第 7 回	保育者として身につけておきたい資質について。保育者として身につけておきたい資質の一つとして、コミュニケーション能力がある。コミュニケーション能力とは何かを実践をとおして学び理解する。						
	第 8 回	保育者として、育てたい幼児像を描く。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考にしながら、育てたい幼児像に迫り考察する。						
	第 9 回	保育実践の実際。子どもたちの実態さらに保護者の願い、社会の様々な要求に応える保育とはどの様であるべきかを分析し、考察する。理想とすべき保育実践を各自のなかで明らかにする。						
	第 10 回	保育者として「理想」の保育を行うために「今」何を学び、何を身に付ければよいか。理想とする保育実践を行うために「今」何を学び、どのような資質を身に付けておくべきかを理解する。						
	第 11 回	子どもの発達と保育内容。子どもの発達について専門領域で学んだ内容を保育の実践に活かす方法について、事例をもとに学び理解する。						
	第 12 回	子育て支援、地域との連携について。子育て支援の実際や地域との連携の実際について事例を通して学び理解する。特に、子育て支援は核家族化における現代社会において重要な事柄であることを理解する。						
	第 13 回	保幼小連携について。保育園、幼稚園、認定こども園と小学校との連携は「今」非常に重要な課題である。特に、小学校での小1プロブレムなどの課題解決のためにもその重要性を理解しておかなければならない。						
	第 14 回	現代社会の情勢について。保育は、社会情勢の在り方に大きく左右される側面を持つ。社会情勢を様々な視点から観られる様になることは保育者として身につけておきたい資質である。中庸な目での情報収集の在り方について理解する。						
	第 15 回	保育者の成長と同僚性、そしてまとめ。保育者は常に学び続けなければならない。そのためにも、学び方を身に付け同僚との学びの重要性について実践事例から学び理解する。いつまでも自分を磨き成長させる保育者となることの重要性を理解する。						
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 講義内容について自分自身で見直し、身に付けるようにする。また、関連事項を自分なりに掘り起こし、学びを広げるようにする。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（５０％）、レポート（３０％）、授業態度（２０％）							
教 科 書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』（チャイルド本社） ＜原本＞内閣府・文部科学省・厚生労働省							
参 考 文 献	講義の中で随時提示する。							
注 意 事 項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。 特にチャイルド本社の物である必要はない。							

科 目 名	教 育 社 会 学			単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	本講義では、教育という身近な営みを、社会学という学問的立場からアプローチすることで、受講生がこれまで自明視してきた教育観や子ども観を捉えなおし、保育実践に応用可能なものの見方や考え方の獲得を目指す。						
到 達 目 標	１．自己と社会との関わりを日常生活の身近な現象からつかみとることができる。 ２．子どもの社会化過程を具体的な事例に即して理解している。 ３．保育者として実践場面に応用可能な社会学的なものの見方を身につけている。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション―集団と規則―					
	第 2 回	「私」のなかの「社会」を見る①―「概念」を使つてものを見る―					
	第 3 回	「私」のなかの「社会」を見る②―「歴史」を捉える―					
	第 4 回	「私」のなかの「社会」を見る③―「働く」ことの意味―					
	第 5 回	「私」のなかの「社会」を見る④―なぜ「保育者」を選んだのか―					
	第 6 回	「社会」を観察する①―「ジェンダー」の視点で日常をみる―					
	第 7 回	「社会」を観察する②―日常に潜む「権力」関係をつかむ―					
	第 8 回	「社会」を観察する③―子どもの貧困、女性の貧困―					
	第 9 回	子どもの問題行動とどう向き合うか①―個人の問題としての問題行動―					
	第 10 回	子どもの問題行動とどう向き合うか②―社会の問題としての問題行動―					
	第 11 回	子どもの問題行動とどう向き合うか③―人びとの活動が問題をつくるという視点―					
	第 12 回	現代の子ども問題について考える①―いじめ問題の成立過程―					
	第 13 回	現代の子ども問題について考える②―いじめ問題とどう向き合うか―					
	第 14 回	子どもの「社会化」を考える①―家族の中の「子ども」について―					
	第 15 回	子どもの「社会化」を考える②―就学前教育から学校生活への移行について―					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 講義内容に関連する小論やエッセイなどを事前に配布する予定である。必ず通読したうえで、講義に臨むこと。講義は通読したことを前提で進める。			復 習： 講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	必要に応じて適宜紹介						
注 意 事 項	１．授業中の私語は認めない。 ２．授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。 ３．授業毎に課題を出す。課題は授業時間内に作成・提出すること。 ４．最終授業日にレポートの提出を求める。レポートの課題は事前に提示する。未提出者は欠格とする。						

科 目 名	保 育 課 程 論			単位数	2	担当教員	たいたに かずよ 鯛谷 和代
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	関係法令、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領と、数園の保育課程・長期（年間・期間・月）短期（週・日・特定の活動など）の指導計画から保育の全体像を学び取り、保育を構想し、指導計画をたてながら学んでいく。						
到 達 目 標	１．保育者は何を基準に保育を行うのか説明できる。 ２．ねらいや子どもの姿から、経験させたい具体的な活動をすぐに思い浮かべることができる。 ３．保育課程から長期・短期の指導計画を立案することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	子どもの生活の連続性、および発達や学びの連続性の関係性について					
	第 2 回	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領について					
	第 3 回	関係法令（教育基本法・学校教育法・児童福祉法・児童福祉施設の基準など）について					
	第 4 回	保育は何を基準に行うのか、保育課程の独自性について					
	第 5 回	保育の全体計画と保育計画の必要性について					
	第 6 回	保育課程編成の基本的な考え方について					
	第 7 回	保育課程編成に必要な基本的事項について					
	第 8 回	保育課程と指導計画の関係について					
	第 9 回	指導計画における記載項目とその内容					
	第 10 回	指導計画作成の手順					
	第 11 回	保育課程がどのように計画として具現化されていくのかについて					
	第 12 回	指導計画の作成① 保育課程から長期指導計画（第 1 ・ 2 期）を作成（グループワーク）					
	第 13 回	指導計画の作成② 保育課程から長期指導計画（第 3 ・ 4 期）を作成（グループワーク）					
	第 14 回	指導計画の作成③ 長期指導計画（月案）から短期指導計画（週案）を作成（グループワーク）					
	第 15 回	保育の評価と保育要領の書き方について					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： グループワークの際、事前に各自案を作成しておくこと。				復 習： 毎回の資料整理 		

科 目 名		保育内容（音楽表現Ⅱ）		単位数	1	担当教員	にと う ひろみ 二藤 宏美
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	教科書をもとに、身体を使った音楽表現ゲームを学習します。授業では、実際にリーダー役となってクラスのメンバーにゲームを伝える実践を通し、展開手法を学びます。遊びに関連した簡単な歌制作やピアノの即興演奏を体験します。適宜、サウンドスケープの理念に基づく身近な音探索課題も紹介します。						
到 達 目 標	１．授業で扱った音楽ゲームの内容と意図を理解し、指導者として状況に応じて柔軟にプログラム展開ができる。 ２．身近な音環境について深く考察し、保育実践の場に応用できる。 ３．聴覚的な想像や音表現を伴う子どもの活動の重要性を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	身近な環境にある音を聴く 私の音楽履歴					
	第 2 回	からだの中の音・見えない音をみつける 静止した音、動く音、声					
	第 3 回	からだの中の音・緊張と弛緩					
	第 4 回	ビートにのろう① リズムのオスティナート					
	第 5 回	ビートにのろう② 変化するリズムパターン					
	第 6 回	拍子を感じよう① 2 拍子、3 拍子、4 拍子					
	第 7 回	拍子を感じよう② さまざまな拍子					
	第 8 回	拍子を感じよう③ 8 分の 6 拍子					
	第 9 回	フレーズ・呼吸・空間① ともだちとかかわる					
	第 10 回	フレーズ・呼吸・空間② アクセントを予感して					
	第 11 回	即興演奏① 高い音 低い音 ドの即興					
	第 12 回	即興演奏② ドの即興、ドとソ					
	第 13 回	即興演奏③ ソファミ 音の階段					
	第 14 回	声だけを使った表現・ストーリーとオリジナル歌ゲームのグループ制作					
	第 15 回	グループ発表、まとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 持ち回り（2 人一組）でリーダーになり、教科書で紹介されているゲームを伝えま す。担当になったら万全に準備をしまし ょう。				復習： 扱ったゲームの意義、プログラム展開、課題、感想をまとめておくこと。		
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（30％）、発表（30％）、実技（30％）、授業態度（10％）						
教 科 書	『体を楽器にした音楽表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック 77 選』（神原雅之、明治図書）						
参 考 文 献	『サウンド・エデュケーション』（R. マリー・シェーファー、春秋社）						
注 意 事 項	１．音や音楽を扱う授業です。しっかり声を出し、音を奏でるべき場面もあれば、沈黙必須の場面もあります。心して臨んで下さい。 ２．教科書を忘れると欠席扱いになります。注意しましょう。						

科 目 名		保育内容（造形表現Ⅱ）		単位数	1	担当教員	たけだ まりえ 武田 真理恵	
			授業形態	演習				
授 業 の 内 容		子どもの発達段階を踏まえた造形表現について理解を深めながら、子どもの表現意欲を引き出す言葉がけや関わり方を学びます。 素材の持ち味をいかした造形表現を考え、子どもたちが心を開放しいきいきと表現できる行動計画の構成を学びます。						
到 達 目 標		１．保育者として豊かな感性、および創造性と表現力を身につけ、子どもの表現活動を多様な方面から受け止め支援できる。 ２．乳幼児期に適したコミュニケーションの手段を豊富に持ち、子どもが表現したくなる手立てを状況に応じて提供できる専門性を身につけている。 ３．子どもの発達に応じた造形表現の行動計画を考え、構成できる力を身につけている。						
授 業 計 画		第 1 回	授業のねらいと進め方について・子どもの造形活動の保育環境設定について					
		第 2 回	感性・イメージを豊かにする① 紙であそぶ					
		第 3 回	感性・イメージを豊かにする② スタンピング					
		第 4 回	感性・イメージを豊かにする③ 素材を生かした楽器制作					
		第 5 回	感性・イメージを豊かにする④ 粘土について					
		第 6 回	遊びを豊かにする① 人形あそびについて					
		第 7 回	遊びを豊かにする② 人形あそびを楽しむ					
		第 8 回	遊びを豊かにする③ 紙袋であそぶ					
		第 9 回	編む・織る 機織り					
		第 10 回	贈る 行事に合わせた贈り物を作る					
		第 11 回	あそびを豊かにする造形表現活動の指導計画					
		第 12 回	環境・行事を豊かにする① 四季を彩る保育室インテリア（グループワーク）					
		第 13 回	環境・行事を豊かにする② 四季を彩る保育室インテリア（グループワーク）					
		第 14 回	環境・行事を豊かにする造形表現活動の発表					
		第 15 回	造形表現活動のまとめと自己評価・ふりかえり					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習		予習： 次回の授業の制作内容（制作案）を考えながら準備物を整える。			復習： 授業振り返りレポート作成と応用作品の制作。			
成績評価の方法		試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（２０％）、作品（４０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書		『楽しい造形表現』（子どもの造形表現研究会 編著、圭文社）						
参 考 文 献		『表現活動の行動計画表づくり』（芸術教育研究所監修、平井由美子編著、黎明書房）他 授業内で随時紹介						
注 意 事 項		１．作品の提出期限を守ること。 ２．授業に必要な道具や材料は各自責任をもって準備すること。 ３．制作に要する材料費は本人負担。						

科 目 名	保 育 指 導 法			単位数	2	担当教員	とうま　　ゆうこ 當麻　　祐子
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	基本的な知識と保育教材研究を通して実践的に学ぶ。 様々な教育・保育場面を想定し、ビデオやグループ討議など交えながら学んでいく。						
到 達 目 標	１．子どもの姿を映したビデオを見て、子ども理解の課題に答えることができる。 ２．提示されたエピソードに対し、学生同士で話し合い、色々な視点があることに気付く。 ３．指導要領と実際の保育教育をつなげて理解している。 ４．幼児教育に携わることへの責任とやりがいを持つ。						
授 業 計 画	第 1 回	保育指導法とは何か			第 16 回	基本的生活習慣の指導	
	第 2 回	子ども理解と保育方法			第 17 回	規範意識の「芽生え」の醸成	
	第 3 回	発達の特徴と保育①（２歳まで）			第 18 回	保育研究～音楽～	
	第 4 回	発達の特徴と保育②（３～５歳）			第 19 回	保育研究～運動～	
	第 5 回	環境を通しての保育			第 20 回	さまざまな安全指導	
	第 6 回	幼児期に相応しい生活			第 21 回	園行事について	
	第 7 回	遊びを通しての指導			第 22 回	教育課程と指導計画	
	第 8 回	個と集団の育ち			第 23 回	絵本と月刊誌	
	第 9 回	期の子どもたちの育ち（前半）			第 24 回	指導案と実践	
	第 10 回	期の子どもたちの育ち（後半）			第 25 回	実習エピソードから学ぶ	
	第 11 回	様々な保育形態			第 26 回	特別支援教育について	
	第 12 回	保育研究～自然～			第 27 回	地域との連携・保護者との関わり	
	第 13 回	保育研究～造形～			第 28 回	就学前教育プログラム	
	第 14 回	保育研究～動物～			第 29 回	保育者の専門性	
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 授業で使用したプリント等で各自復習する。		
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）						
教 科 書	オリジナルのパワーポイントスライドを使用（適宜配布）						
参 考 文 献	『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針＜原本＞』 （内閣府／文部科学省／厚生労働省、チャイルド本社）						
注 意 事 項	１．人格の基礎を培う幼児期の保育教育に携わるための勉強であることを自覚して臨むこと。 ２．授業へ取り組む姿勢を重視していく。						

科 目 名	教 育 方 法・技 術 論		単位数	1	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。また、情報機器やそれらを活用した教材の活用、教材作成の技術と方法について学び、実際に教材を作成し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、各回 10 名前後の学生が個人発表の形式で行なう（発表は全 4 回を予定）。発表内容については、授業時間内に意見交換を行ない、よかった点や改善点を学生同士で共有する。					
到 達 目 標	1. 保育者の立場にたって具体的な教育方法について考察できる。 2. 子どもや保護者を想定して、保育者の実践のねらいを適切に伝える方法を実践できる。 3. 具体的な情報機器や情報メディアを通じて、教育目標に即した教材を作成できる。 4. 学生相互が発表する機会を持ち、プレゼンテーション能力や聞く態度を身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション—教育方法とは何か—				
	第 2 回	教育方法の基本原理—教育の目的と手段の関係について—				
	第 3 回	幼児教育における方法と技術①—「絵本」から子どもへの対応を考える—				
	第 4 回	幼児教育における方法と技術②—「絵本」という教材について—				
	第 5 回	幼児教育における方法と技術③—「映像」から子どもへの対応を考える—				
	第 6 回	幼児教育における方法と技術④—映像の読み方・記述の仕方—				
	第 7 回	幼児教育における方法と技術⑤—「実践記録」から子どもへの対応を考える				
	第 8 回	幼児教育における方法と技術⑦—出来事をどのように伝えるか—				
	第 9 回	プレゼンテーションソフトの活用①—教材作成の目標設定と計画設計—				
	第 10 回	プレゼンテーションソフトの活用②—発表資料の制作—				
	第 11 回	プレゼンテーションソフトの活用③—発表資料の制作—				
	第 12 回	プレゼンテーションの技法①—個人発表および意見交換①—				
	第 13 回	プレゼンテーションの技法②—個人発表および意見交換②—				
	第 14 回	プレゼンテーションの技法③—個人発表および意見交換③—				
	第 15 回	プレゼンテーションの技法④—個人発表および意見交換④—				
授 業 に 対 す る 予 習・復 習	予 習： 幼保施設や児童館で配布される「おたより」などを日ごろから集めておくこと。 幼稚園や保育園の HP で用いられている文章や写真に目を通しておくこと。			復 習： 授業時間外を利用して、各自の進捗に応じて課題の制作を進めておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60％）、発表（40％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	必要に応じて適宜紹介					
注 意 事 項	1. 適宜プリントを配布する。 2. 毎時間、課題にきちんと取り組むこと。 3. 課題の提出期限は厳守すること。					

科 目 名		教 育 相 談		単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。 背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになると考えられる。本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で活きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。						
到 達 目 標	カウンセリング等相談の基本を学び、それを保育現場での教育相談の実践に活かすことを考えられること。そして、保育者として多様な子どもや保護者の問題を理解し、相談者の心に寄り添う相談実践を勇気を持っておこなえるようになる。 １．相談の意義、方法等の基本を習得している。 ２．保育者として、相談者の心に寄り添う教育相談の実践をおこなう心を身につけている。						
授 業 計 画	第1回	イントロダクション 教育相談とは何か					
	第2回	体験から学ぶ相談に必要なこと① ロールプレイ 相談を受ける時の基本姿勢					
	第3回	体験から学ぶ相談に必要なこと② ロールプレイ 意思を通じあうこと					
	第4回	相談実践の基本と応用① 教育相談の基礎① 概要					
	第5回	相談実践の基本と応用② 教育相談の基礎② 実践へのヒント					
	第6回	相談実践の基本と応用③ 教育相談のためのカウンセリング活用					
	第7回	相談実践の基本と応用④ 教育相談のための心理アセスメント					
	第8回	相談実践の基本と応用⑤ 教育相談のプロセス					
	第9回	相談実践の基本と応用⑥ 教育相談の技法					
	第10回	事例から学ぶ教育相談① 子どもの心の発達・心の問題 登園渋り					
	第11回	事例から学ぶ教育相談② 子どもの心の発達・心の問題 逸脱行動					
	第12回	事例から学ぶ教育相談③ 子どもの心の発達・心の問題 保護者の心					
	第13回	保育者の心の健康を育む① カウンセリングの理論					
	第14回	保育者の心の健康を育む② エンカウンター実習					
	第15回	まとめと今後へのアドバイス					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習：		知識の定着をおこない、学んだことを実際の場面でどう活かすか考えること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（８０％）、課題（２０％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	講義の中で必要に応じて適宜紹介						
注 意 事 項	１．講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。 ２．相談を受けて人に関わる時、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。						

科 目 名	幼 児 教 育 実 習		単位数	4	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
		授業形態	実習			
授 業 の 内 容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを実践を通して学ぶ。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、保育者の助手的立場をとるなどの経験を通し、保育者の職務理解に務める。前期実習を２年次１１月に、後期実習を３年次１０月に実施する。					
到 達 目 標	１．子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて習得している。 ２．保育者の職務理解に努め、責任実習を通し指導方法、指導技術などを習得している。 ３．幼稚園の役割や機能について理解している。					
授 業 計 画	前期実習（観察・参加実習）			後期実習（参加・責任実習）		
	実習園の概要を知る			幼稚園の特徴、機能や役割を学ぶ		
	実習園の日課を理解する			配属クラスの特徴をつかみ子どもとかかわる		
	配属クラスの子どもの名前を覚える			個々の子どもの特性を把握し、一人ひとりに合ったかわりをする		
	子どもの遊びに参加する			保育者の保育の進め方や指導方法を学ぶ		
	保育の進め方を観察する			保育の多様な活動の部分を担当する		
	環境構成のあり方を学ぶ			教材研究をする		
	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等、保育の営みの一部分を担当する			部分実習、責任実習などの指導案を作成し実践する		
	子どもの興味・関心、思考傾向など子どもの実態を知る			登園時、降園時の保育者と保護者のかかわり方を観察する		
	保育者の職務について学ぶ			幼稚園と他機関との連携、子育て支援などについて学ぶ		
	前期実習を振り返り自己評価をする			実習全般の振り返りを行う		
	自己課題を明確にし後期実習にむけた準備をする			保育者としての自己課題を明確にする		
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 絵本や紙芝居等の教材研究をする。 指導案を作成する。 子どもに提供できる遊びを身に付ける。 ピアノの練習をする。			復習： 実習概要報告書をまとめる。 実習を振り返り自己課題を明確にする。 学んだ保育技術を明確にする。 ピアノの練習をする。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園の評価（５０％）、実習日誌評価（５０％）					
教 科 書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）					
参 考 文 献	幼稚園教育要領（文部科学省）					
注 意 事 項	１．指導案、実習日誌の提出期限は厳守すること。 ２．日々の講義一つ一つが実習につながっていることを自覚し、緊張感をもった学生生活を送ること。					

科 目 名	幼 児 教 育 実 習 研 究	単位数	1	担当教員	こしかわようこ　ながい 越川葉子・永井めぐみ
		授業形態	実習		
授 業 の 内 容	この授業は、教育実習が不安なく効果的に行われるよう、実習に向けて事前に準備をするための教科である。実習に必要な書類を整えることから指導案の作成、自己課題の発見と学ぶ範囲も非常に広い。また、実習園からの情報も、基本的には授業内で伝える。映像教材を使用し、幼稚園や保育者、子どもの実態を具体的に理解する。				
到 達 目 標	１．幼稚園に関する基本的な事を理解している。 ２．子どもの発達の様子や遊びの実態を理解している。 ３．保育活動、保育内容を理解している。 ４．教材研究、指導案を作成できる。				
授 業 計 画	第 1 回	実習申し込み書、実習配当表を記入する		第 16 回	実習報告—グループ、全体—
	第 2 回	幼稚園の一日の様子を映像から通し学ぶ		第 17 回	実習自己評価と自己課題
	第 3 回	幼稚園教育要領解説		第 18 回	自己課題の取り組み方法
	第 4 回	提出書類の作成①—学生調査書下書き—		第 19 回	園評価と個別面談
	第 5 回	提出書類の作成②—学生調査書清書—		第 20 回	後期実習に向けて
	第 6 回	実習内容—環境整備、子どもの遊びなど—		第 21 回	実習時期と教材研究
	第 7 回	自己紹介の方法と紹介グッズの作成		第 22 回	部分実習指導案の作成
	第 8 回	実習時期の保育や子どもの様子		第 23 回	主活動の指導案作成
	第 9 回	実習課題を考える		第 24 回	一日保育実習指導案の作成
	第 10 回	オリエンテーションの受け方		第 25 回	オリエンテーション報告書と実習巡回教員への挨拶
	第 11 回	実習日誌の書き方①—保育の記録—		第 26 回	後期実習の心得
	第 12 回	実習日誌の書き方②—一日の振り返りと自己評価—		第 27 回	実習反省会
	第 13 回	記録文としての表現方法		第 28 回	実習報告会準備
	第 14 回	実習中の諸注意		第 29 回	実習報告会資料作成
	第 15 回	オリエンテーション報告、実習報告書		第 30 回	実習報告会
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　絵本や手遊びなどを準備する。 実習資料を収集する。		復習：　授業時に出したレポートをまとめる。 授業中に完成できなかった課題をまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（２０％）、課題（４０％）、実技（２０％）、授業態度（２０％）				
教 科 書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）				
参 考 文 献	『幼稚園教育要領』 保育雑誌など				
注 意 事 項	事前に十分な準備を行なうことは、子どもや実習園の状況に応じた柔軟な対応を可能にする。受講生には、授業時だけでなく、授業時間外にも書籍や保育雑誌に目を通し、実践方法を学ぶことが求められる。				

科 目 名	保育・教職実践演習（幼稚園）		単位数	2	担当教員	つちや いとう こしかわ たかはら 土屋・伊藤・越川・高原
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。主に使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、幼児理解や学級経営に関する事項、教科・保育内容に関する事項といった4つの具体的なテーマを中心に履修する。					
到 達 目 標	1．演習体験を通して、教職生活についての具体的なイメージができています。 2．他の学生とのディスカッションなどの経験から、視野を広げて子どもとのかかわりを捉えることができる。 3．ポスター発表などを通じて、今日的課題を理解している。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	子ども一人ひとりに応じる保育とは① 子ども理解				
	第3回	子ども一人ひとりに応じる保育とは② 保護者に保育を伝える				
	第4回	保育者の視点で考える① 出来事を記述することについて				
	第5回	保育者の視点で考える② 子どものトラブルに保育者はどう関わるか				
	第6回	今日的教育課題への理解を深める① 子どもの権利に関する条約				
	第7回	今日的教育課題への理解を深める② 事例作成				
	第8回	今日的教育課題への理解を深める③ ポスター発表に向けて製作				
	第9回	今日的教育課題への理解を深める④ ポスター発表				
	第10回	保護者同士の人間関係にアプローチする				
	第11回	保育者の悩みと対応について考える				
	第12回	現職幼稚園教諭による講話（クラス運営や職業生活の実際）				
	第13回	保育実践に向けて① 児童文化 素話とは				
	第14回	保育実践に向けて② 児童文化 素話に取り組む				
	第15回	授業全体のまとめと振り返り				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 次回の授業に関して、課題が示された場合にしっかりと取り組むこと。			復 習： 配布資料を読み直し、ディスカッション等で話し合った内容をノートに整理する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（40％）、発表（60％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	授業において紹介					
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。					

科 目 名	保 育 相 談 支 援		単位数	1	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育現場において、保護者や子ども達の相談を受けることは現代の保育者にとって必須となる。従って、保育者を志す者は相談をどのように受ければよいのかを知っておく必要がある。 この授業では、これまで学んできた心理カウンセリングの知識などを確認するとともに、実際の保育相談支援の現場を知ることで、実践的な保育相談を学んでいく。					
到 達 目 標	１． 保護者対応の実態を把握している。 ２． 保護者の悩みについて理解している。 ３． 就職してすぐに行う保護者支援についての具体的イメージを持っている。					
授 業 計 画	第 1 回	保育相談支援の意義				
	第 2 回	保育相談支援の原則				
	第 3 回	ケースワークの原則とカウンセリング				
	第 4 回	保護者の支援				
	第 5 回	保育相談の基本的な方法				
	第 6 回	保育相談で扱われる事例① 教科書の事例を学ぶ				
	第 7 回	保育相談で扱われる事例② 心理的問題				
	第 8 回	保育相談で扱われる事例③ 発達の問題				
	第 9 回	保育相談で扱われる事例④ 保護者の問題				
	第 10 回	保育所以外の場所での保育相談				
	第 11 回	他機関との連携				
	第 12 回	保育者の専門性と保育所の特性を考える				
	第 13 回	実際の事例を検討する① 学生発表				
	第 14 回	実際の事例を検討する② 学生発表				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 保育所保育指針を読んでおく。			復 習： 授業内容の振り返り。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（９０％）、授業態度（１０％）					
教 科 書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援 その方法と実際』（須永進編著、同文書院）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	保育相談では、悩んでいる人の発言に耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聴き取るという構えを求める。					

科 目 名	臨 床 心 理 学			単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。また、臨床心理学では幼少時の母子関係や発達課題などが数多く論じられている。それらを紹介し、幼少時の子どもとのつき合い方を考えていきたい。						
到 達 目 標	1．臨床心理学という学問分野を理解している。 2．保育と臨床心理学の接点を考えることができる。 3．人の心の動きを理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	臨床心理学の定義			第 16 回	心理カウンセリングの定義	
	第 2 回	臨床心理学の実践			第 17 回	クライエント中心療法	
	第 3 回	臨床心理学の歴史① 古代～メソメル			第 18 回	クライエント中心療法の実践	
	第 4 回	臨床心理学の歴史② 精神分析（フロイト）			第 19 回	心理アセスメントの定義	
	第 5 回	臨床心理学の歴史③ 精神分析（その他）			第 20 回	心理アセスメントの方法	
	第 6 回	ユングの童話分析			第 21 回	言語によるアセスメント	
	第 7 回	臨床心理学の歴史④ 心理学の技法			第 22 回	非言語によるアセスメント	
	第 8 回	乳児期の母子関係① フロイト			第 23 回	心理テスト	
	第 9 回	乳児期の母子関係② メラニー・クライン			第 24 回	アセスメントと 4 つの水準	
	第 10 回	乳児期の母子関係③ ウイニコット			第 25 回	精神分析の技法① 自由連想法・抵抗分析	
	第 11 回	幼児期前半の母子関係			第 26 回	精神分析の技法② 転移・防衛機制	
	第 12 回	幼児期後半の母子関係			第 27 回	催眠療法	
	第 13 回	児童期以降の発達			第 28 回	認知行動療法	
	第 14 回	前期の復習			第 29 回	リラクゼーションとイメージ療法	
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 1 年次の心理学関連科目の内容を思い出しておくこと。				復習： 授業内容を振り返ること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（90％）、授業態度（10％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項							

科 目 名	地 域 子 育 て 支 援 論		単位数	2	担当教員	つちやゆう　こしかわようこ 土屋由・越川葉子
			授業形態	講義		
授 業 の 内 容	現代社会において、子育て支援は重要な課題となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、学生が主体となって実際の支援活動（後期に 5 回連続で実施）を企画・運営することで「地域子育て支援」のあり方について学ぶ。					
到 達 目 標	1．子育て支援の具体的方法について理解している。 2．二歳・三歳児と保護者への関わり方を習得している。 3．子育て支援の効果を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション			第 16 回	チラシの配布
	第 2 回	支援活動内容についての説明			第 17 回	親子活動準備③―教材準備―
	第 3 回	親子活動内容についての検討①―過去の活動内容―			第 18 回	活動役割分担
	第 4 回	親子活動内容についての検討②―活動のねらい―			第 19 回	直前準備
	第 5 回	親子活動内容についての検討③―主活動案の検討―			第 20 回	親子活動①―自己紹介、室内遊び―
	第 6 回	親子活動内容についての検討④―主活動案の決定―			第 21 回	親子活動②―制作活動―
	第 7 回	親子活動内容についての検討⑤―活動担当決め―			第 22 回	親子活動③―運動遊び―
	第 8 回	親子活動内容についての検討⑥―各回の検討―			第 23 回	親子活動④―絵の具遊び―
	第 9 回	親子活動内容についての検討⑦―各回の決定―			第 24 回	親子活動⑤―制作活動、振り返り―
	第 10 回	親子活動の広報に関する検討			第 25 回	活動振り返り①（1 回につき 4・5 名ずつ）
	第 11 回	ポスターの製作			第 26 回	活動振り返り②（1 回につき 4・5 名ずつ）
	第 12 回	チラシの製作			第 27 回	活動振り返り③（1 回につき 4・5 名ずつ）
	第 13 回	HP の製作			第 28 回	活動振り返り④（1 回につき 4・5 名ずつ）
	第 14 回	親子活動準備①―模擬制作―			第 29 回	次年度に向けた意見交換
	第 15 回	親子活動準備②―模擬活動―			第 30 回	まとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：　活動に関して各自で準備すること。			復習：　活動内容を振り返ること（レポート）。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 授業態度（100％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	1．20名までの受講とする。 2．第3回～9回については、学生が主体となって活動の内容を決定する。					

科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ 論		単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話を如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。 <u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u>					
到 達 目 標	1. カウンセリングの方法を理解している。 2. ピアヘルピングについて理解している。 3. カウンセリング的援助を実践できる。					
授 業 計 画	第 1 回	カウンセリングの定義				
	第 2 回	カウンセリングの初期の流れ				
	第 3 回	実際のカウンセリング				
	第 4 回	構成的グループ・エンカウンター				
	第 5 回	ピアヘルピングの方法① 信頼関係の構築				
	第 6 回	ピアヘルピングの方法② 問題の把握				
	第 7 回	ピアヘルピングの方法③ 援助法の選択				
	第 8 回	ピアヘルピングの方法④ 青年期の問題				
	第 9 回	ピアヘルピングの方法⑤ 応用編				
	第 10 回	ピアヘルピングの方法⑥ ロールプレイ				
	第 11 回	カウンセリングで起こりやすい問題点				
	第 12 回	様々な症例に対するカウンセリング				
	第 13 回	カウンセリングと保育				
	第 14 回	カウンセリングと子育て支援				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 教科書を熟読する。			復 習： 教科書を読み直す。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（100%）					
教 科 書	『ピアヘルパー・ハンドブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社） 『ピアヘルパー・ワークブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。					

科 目 名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営			単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	児童館は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。そして、放課後児童クラブは、同法に基づき小学生のうち、保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与え、健全な育成を図る事業である。授業では、児童館・放課後児童クラブの歴史、目的、役割、利用状況、現状・課題を学んでいく。また実習で活用できる遊び等も紹介する。						
到 達 目 標	１．児童館・放課後児童クラブの機能や地域における役割を理解している。 ２．児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援や児童の健全育成を理解している。 ３．児童館が小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っていることを理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	児童厚生員とその資格の説明					
	第 2 回	児童館の説明					
	第 3 回	現代の子どもたちの遊び環境					
	第 4 回	「健全育成」とは					
	第 5 回	児童館の起源、種別及び機能					
	第 6 回	小型児童館・児童センター・大型児童館の設置及び運営					
	第 7 回	児童館ガイドライン					
	第 8 回	児童館の課題と展望					
	第 9 回	放課後児童健全育成事業の概要と実態					
	第 10 回	放課後児童クラブの説明					
	第 11 回	放課後児童クラブの現状と課題					
	第 12 回	児童館の活動内容と事例					
	第 13 回	放課後児童クラブの活動内容と事例					
	第 14 回	地域で支える健全育成					
	第 15 回	これまでのまとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習： 配布した資料、教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（５０％）、課題（２０％）、授業態度（３０％）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。						
教 科 書	『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。						

科 目 名		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		単位数	2	担当教員	いがき としろう 井垣 利朗
		授業形態		講義			
授 業 の 内 容	児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動概要、行事の企画立案法、利用者への対応、地域とのかかわり等、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を学んでいく。また、実践的な指導スキルが身につくように、授業の中で DVD 映像と実習に活用できる遊びを紹介する。						
到 達 目 標	1. 児童館・放課後児童クラブの活動の概要を理解し、提示できる。 2. 地域子育て支援のエキスパートとして、児童ソーシャルワーク、子育て支援、ボランティアの育成ができる。 3. 現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション（児童館・放課後児童クラブの一日、年間の流れ）					
	第 2 回	児童館の概要（児童館の歴史と設置目的、法的根拠、活動内容、児童館ガイドライン）					
	第 3 回	子どもの発達と遊びの支援の実際					
	第 4 回	子どもの遊びを通じた健全育成					
	第 5 回	子どもの居場所づくりと保護者への子育ての拠点事業					
	第 6 回	ボランティアの育成と地域連携					
	第 7 回	放課後児童クラブの概要（法的根拠、活動内容、育成支援の内容、放課後児童クラブ運営指針）					
	第 8 回	子育て子育て支援を行う乳幼児活動（地域子育ての支援プログラム、支援法）					
	第 9 回	体験・自己実現を目指す小学生活動（仲間づくり、支援法）					
	第 10 回	地域社会と結びつける中高生活動（地域連携、子どもの意見を取り入れた活動）					
	第 11 回	子どものニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（個人ワーク、グループ演習）					
	第 12 回	グループ企画発表会と講評					
	第 13 回	必要なスキルと子どもの接し方（ケースワーク、グループワーク）					
	第 14 回	児童館・放課後児童クラブの運営（倫理、安全管理、防犯防災対策等）					
	第 15 回	まとめ（児童館・放課後児童クラブに求められる社会的課題）					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 『放課後児童クラブ調査』（第 7 回）、『イベント企画案』（第 1 1 回）、『グループ企画書』（第 1 2 回）、『児童館の必要性』（第 1 5 回）の提出課題を予習する。				復習： 配布資料を再読し、『振り返りシート』を作成する。また、「児童館の調査（第 5 回提出）」の課題を復習する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30％）、発表（20％）、授業態度（50％）						
教 科 書	なし （毎回、資料を配布する）						
参 考 文 献	『児童館論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団） 『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団） 『児童館の機能と運営』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）						
注 意 事 項	1. 配布するすべての資料を毎回の授業に持参すること。 2. 課題は、期限を厳守すること。 3. 実技、演習、作品作成については、積極的な姿勢を授業態度として評価する。 4. 欠席回数が、全授業の 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象外となる。						

科 目 名		福 祉 施 設 の 現 状		単位数	2	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	福祉施設の利用者は、社会的養護を必要とする子どもたちや障害を持った子どもたち（成人施設を含む）である。その利用者は施設でどのような生活をし、将来自立した生活を行うために保育士や職員はどのような支援を行っているのか、保育士の役割など事例を通して自立支援のあり方を理解し、実践の場で活用できるようにする。						
到 達 目 標	１．福祉施設の入退所に係る児童相談所や福祉事務所などの措置、支援について説明ができる。 ２．各福祉施設の支援内容について説明ができる。 ３．福祉施設職員として支援のあり方について説明ができる。						
授 業 計 画	第 1 回	社会的養護の必要な子どもの現状 福祉施設は各種ある。それぞれの施設はどのような役割を担っているかを学ぶ					
	第 2 回	福祉施設の入所から退所までの手続き 措置機関としての児童相談所、福祉事務所の役割について理解する					
	第 3 回	乳児院の現状と課題 乳児院の子どもたちの生活の現状と保育士の役割、愛着関係の形成について理解する					
	第 4 回	児童養護施設の現状と課題 児童養護施設での保育士の役割や被虐待児への支援、自立に向けた支援のあり方について考える					
	第 5 回	情緒障害児施設の現状と課題 情緒障害児施設での保育士の役割や家族支援のあり方について考える					
	第 6 回	児童自立支援施設の現状と課題 児童自立支援施設に入所する児童の事例から、非行と虐待の関係について検証する					
	第 7 回	母子生活支援施設の現状と課題 母子への支援はどのように行われるか、事例を通して保育士の役割を考える					
	第 8 回	障害者生活支援施設の現状と課題① 障害者総合福祉法及び障害者の自立と社会参加のついてどのような支援が行われているかを理解する					
	第 9 回	障害者生活支援施設の現状と課題② 自立に向けた福祉的就労と地域社会の資源の活用方法について考える					
	第 10 回	重症心身障害児施設の現状と課題 施設内での医療ケアや保育士の役割を理解する					
	第 11 回	里親制度の現状と課題 被虐待児の増加と里親養育の意義について事例を通して考える					
	第 12 回	福祉施設の新しい動き 施設生活から地域生活重視へ　グループホームやファミリーホームなど					
	第 13 回	福祉施設の倫理 児童養護施設や障害児施設での体罰事例を通して職員の倫理を考える					
	第 14 回	認可外保育施設の現状と課題 民間事業者参入に伴う認可外保育施設の増加と課題について考える					
	第 15 回	福祉施設のリスクマネジメント まとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 施設の種別ごとにグループでレポートしてもらうので、日ごろからニュースや新聞報道に目を通して関心を持つておくこと。				復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（６０％）、レポート（２０％）、課題（２０％）						
教 科 書	なし （適宜プリントを配布）						
参 考 文 献	『子どもたちの生活を支える社会的養護内容』（小野澤昇・田中利則・大塚良一　編著）						
注 意 事 項							

科 目 名	地 域 福 祉			単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。						
到 達 目 標	１．地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解している。 ２．行政組織と民間組織の役割を理解している。 ３．現代における地域福祉の課題を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	新しい社会福祉システム					
	第 2 回	地域福祉の基本的な考え方					
	第 3 回	地域福祉の主体と福祉教育					
	第 4 回	行政組織と民間組織の役割と実際					
	第 5 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割					
	第 6 回	住民の参加と方法					
	第 7 回	ソーシャルサポートネットワーク					
	第 8 回	地域における社会資源活用・調整・開発					
	第 9 回	地域における福祉ニーズの把握方法					
	第 10 回	地域トータルケアシステムの構築と実際					
	第 11 回	民生委員とは					
	第 12 回	地域における福祉サービスの実際					
	第 13 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方					
	第 14 回	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション					
	第 15 回	これまでのまとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：				復習：		配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（６０％）、課題（１０％）、授業態度（３０％）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。						
教 科 書	なし (授業でプリント配布)						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。						

科 目 名	保 育 施 設 経 営 論		単位数	2	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	保育所を経営するということは、保育実践による“価値”を生み出し続けることである。そのためには、経営の条件を知り、「何のために」「何を大事にして」「どうあるべきか」を考え尽くすことが経営者の義務であり、なすべきことである。本講義において、この経営の本質を「経営品質」の視点から考察し、現場において活用できるように細分化する。また、保育所施設経営の重要性に対する実感を本講義のねらいとしたい。					
到 達 目 標	1．経営者として立つ倫理観を習得している。 2．保育所施設経営の観点から、実践を磨いていく具体的な方法を習得している。					
授 業 計 画	第 1 回	保育所経営の条件				
	第 2 回	価値を生み出す保育所経営活動				
	第 3 回	保育所におけるリーダーシップ				
	第 4 回	保育所における社会的責任				
	第 5 回	保育業界市場の理解と対応				
	第 6 回	保育所戦略の策定と展開				
	第 7 回	保育士能力向上				
	第 8 回	保育所能力向上				
	第 9 回	保育現場という職場環境				
	第 10 回	保育価値創造のプロセス				
	第 11 回	情報マネジメント				
	第 12 回	保育所経営活動結果分析				
	第 13 回	人事・労務管理				
	第 14 回	施設・整備管理				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 毎回の授業時に、講義内容を踏まえた予習課題を明示する。			復習： 毎回の授業後に、講義内容の理解を図るための復習課題をおこなう。 (添削指導を行い必ず理解につなげ発展できるよう指導する。)		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（50%）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	『社会福祉施設・事業者の為の経営ハンドブック』（東京都社会福祉協議会） 『日本経営品質賞アセスメント基準書』（日本経営品質委員会）、日本経営品質学会機関誌					
注 意 事 項						

科 目 名	児童文化（感受性開発を含む）			単位数	2	担当教員	あさぎ　なおみ 浅木　尚実
			授業形態	演習			
授 業 の 内 容	子どもの文化は、しあわせな子ども時代を実現できる学問であることを理解する。児童文化財（わらべうた、手遊び、絵本、おはなし、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、おもちゃ等）全般に亘って、知識を深める。保育士、保護者、子どもが、相互に交流できる楽しいコミュニケーションの仕方を学ぶ。						
到 達 目 標	１．子どもの文化全般の知識を習得している。 ２．文化財の表現の仕方と実技力を習得している。 ３．楽しみながら、制作、実演し、自らの感性を高めることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	児童文化の概念の成立と変遷			第 16 回	子どもの文化財の背景と特色⑤：メディア	
	第 2 回	子ども観の歴史			第 17 回	子どもの文化財のグループ演習⑤：メディア	
	第 3 回	子どもの文化財の背景と特色①：わらべうた・手遊び			第 18 回	子どもの文化財の背景と特色⑥：昔話	
	第 4 回	子どもの文化財のグループ演習①：わらべうた・手遊び			第 19 回	子どもの文化財のグループ演習⑥：昔話	
	第 5 回	子どもの文化財の背景と特色②：紙芝居			第 20 回	子どもの文化財の背景と特色⑦：季節の行事・遊び	
	第 6 回	子どもの文化財のグループ演習②：紙芝居			第 21 回	子どもの文化財のグループ演習⑦：季節の行事・遊び	
	第 7 回	子どもの文化財の背景と特色③：おはなし			第 22 回	子どもの文化財の背景と特色⑧：パネルシアター・エプロンシアター	
	第 8 回	子どもの文化財のグループ演習③：おはなし			第 23 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作① 型紙をとる／デザインをする	
	第 9 回	子どもの文化財の背景と特色④：絵本			第 24 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作② P ぺーパーに型どりをする／パーツを作成する	
	第 10 回	子どもの文化財のグループ演習④：絵本			第 25 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作③ 色を塗る／エプロンの仕掛けを作成する	
	第 11 回	発達に応じた絵本の選び方①　赤ちゃん絵本			第 26 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作④ 脚本を作成する	
	第 12 回	発達に応じた絵本の選び方②　幼児の絵本			第 27 回	発表①　発表の仕方を学ぶ	
	第 13 回	手作りおもちゃ制作①　デザインを考える			第 28 回	発表②　発表する	
	第 14 回	手作りおもちゃ制作②　制作する			第 29 回	発表③　質疑応答	
	第 15 回	グループ発表：夏祭り			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習：　　次回の学習に関連した章を読んでくる。				復 習：　　授業で学んだ内容をまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（７０％）、作品（１０％）、実技（１０％）、授業態度（１０％）						
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）						
参 考 文 献	その都度紹介する						
注 意 事 項	１．児童文化に関する講義と演習をテーマごとに交互に行うため、準備、復習を行うこと。 ２．制作に必要な材料を準備すること。 ３．各自、発表の準備を行うこと。						

科 目 名	イ ン タ ー ン シ ッ プ		単位数	2	担当教員	はしもと ようこ 橋 本 洋子
		授業形態	実習			
授 業 の 内 容	インターンシップ（就業体験）は学外実習のひとつであり、様々な分野の企業等の就業体験を通して職業理解を深め、広い視野をもつことができる。この授業は長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。					
到 達 目 標	１．授業を通して社会人として必要なビジネスマナーを習得している。 ２．就業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 ３．就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。					
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス① 地域保育学科におけるインターンシップ実習の意義、概要、今後のスケジュール				
	第 2 回	ガイダンス② インターンシップ実習報告会（前回実習参加者による体験発表）				
	第 3 回	インターンシップへの心構え、受入事業体の職種および業務内容の理解				
	第 4 回	実習申込み手続き				
	第 5 回	学内選考（書類・面談）				
	第 6 回	実習先事業体の決定				
	第 7 回	事前指導① インターンシップ参加目的と目標設定、必要な手続き等の説明				
	第 8 回	事前指導② 学外向け書類の作成および提出				
	第 9 回	事前指導③ 社会人としての基本マナー等				
	第 10 回	就業体験（現場での実務体験）事業体によって実習時期、期間が異なる				
	第 11 回					
	第 12 回					
	第 13 回	事後指導① 記録の提出、報告書の作成				
	第 14 回	事後指導② 面談、実習報告会の準備				
	第 15 回	事後指導③ インターンシップ実習報告会				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習および復習：予習（事前準備）および復習が必要な場合は担当教員が指示する。					
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習（６０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）					
教 科 書	必要に応じて随時指定					
参 考 文 献	必要に応じて随意紹介					
注 意 事 項	１．実習に必要な手続きおよび書類作成は授業内で行うため必ず出席すること。 ２．事前事後指導の無断欠席は派遣を中止する場合もある。					

科 目 名	レ ク リ エ ー シ ョ ン 論		単位数	2	担当教員	し ん ど のぶゆき 新 戸 信 之
		授業形態	講義			
授 業 の 内 容	過去の経験により形成された「レクリエーション」の概念を検証するとともに、レクリエーション運動の歴史を紐解きながら、様々な領域・場面におけるレクリエーション活動の意義や効果・必要性について、企画方法・実技とも連動させ、体系的に学習する。					
到 達 目 標	1．レクリエーションの本質を理解している。 2．レクリエーション支援の企画から事後評価に係る、一連のプロセスについて理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 自由とレクリエーション				
	第 2 回	レクリエーションとは何か レクリエーション略史				
	第 3 回	レクリエーション支援の構造				
	第 4 回	領域別レクリエーション				
	第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション				
	第 6 回	健康スポーツとレクリエーション				
	第 7 回	セラピューティックレクリエーション APIE プロセス				
	第 8 回	レクリエーションの価値とニーズ 財の分類				
	第 9 回	レクリエーション事業とは				
	第 10 回	レクリエーション事業計画				
	第 11 回	レクリエーション行動のメカニズム				
	第 12 回	コミュニケーションスキルとホスピタリティ				
	第 13 回	レクリエーションワーカーの資質 安全管理				
	第 14 回	支援プログラム案の作成方法				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 各回のテーマから、内容を予想、イメージする。			復 習： 授業の内容と、自己の経験を照らし合わせてみる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（８０％）、授業態度（２０％）					
教 科 書	『レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（日本レクリエーション協会）					
参 考 文 献	『レクリエーション活動援助法』（福祉士資格講座編集委員会、中央法規）					
注 意 事 項						

科 目 名		レ ク リ エ ー シ ョ ン 実 技		単 位 数	2	担当教員	し ん ど のぶゆき 新 戸 信 之
			授 業 形 態	実 技			
授 業 の 内 容	前期は、様々なレクリエーション財を体験し、それぞれの持つおもしろさや効果を感じることを目的とし、後期は、日時・場所・対象など、支援現場に即した状況でロールプレイをすることにより、現場対応力を身につけることを目的とする。 1年を通して、レクリエーションを学んだ者のスペシャリティとなり得るスキルを習得することを目的とする。						
到 達 目 標	1．事前情報に即した支援プログラムを作成できる。 2．支援現場の状況に応じた対応ができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション コミュニケーション・ワーク（個人→グループ）				第 16 回	支援プログラム評価の視点について 携帯メールによる他者評価の方法について
	第 2 回	動的グループ・ゲーム				第 17 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験の準備・リハーサル
	第 3 回	静的グループ・ゲーム				第 18 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ①
	第 4 回	イニシアティブ・ゲーム				第 19 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ②
	第 5 回	グループ・ワーク・トレーニング				第 20 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ③
	第 6 回	レクリエーション・スポーツ① 「チャレンジ・ザ・ゲーム」				第 21 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ④
	第 7 回	レクリエーション・スポーツ② 「ドッジビー」・「アルティメット」				第 22 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ⑤
	第 8 回	身近な物を利用して遊ぶ				第 23 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ⑥
	第 9 回	知的レクリエーション財				第 24 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ⑦
	第 10 回	スポーツ① 「バドミントン」				第 25 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ⑧
	第 11 回	スポーツ② 「バレーボール」				第 26 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ⑨
	第 12 回	創造的レクリエーション財（絵画）				第 27 回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験：グループ⑩
	第 13 回	創造的レクリエーション財（造形）				第 28 回	レクリエーション支援のポイント
	第 14 回	レクリエーションプログラム案の作成①				第 29 回	まとめ
	第 15 回	レクリエーションプログラム案の作成②				第 30 回	チャレンジ・ザ・ゲーム
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 後期の「ロールプレイによるレクリエーション支援体験」については、ネット上に掲載された過去の他者評価を参考にし、臨む。リハーサルは必須。				復 習： 後期の「ロールプレイによるレクリエーション支援体験」については、発表後、自己評価と他者評価を基に指導案を修正し、完成させる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（１０％）、作品（１０％）、発表（５０％）、授業態度（３０％）						
教 科 書	『レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（日本レクリエーション協会）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項							